

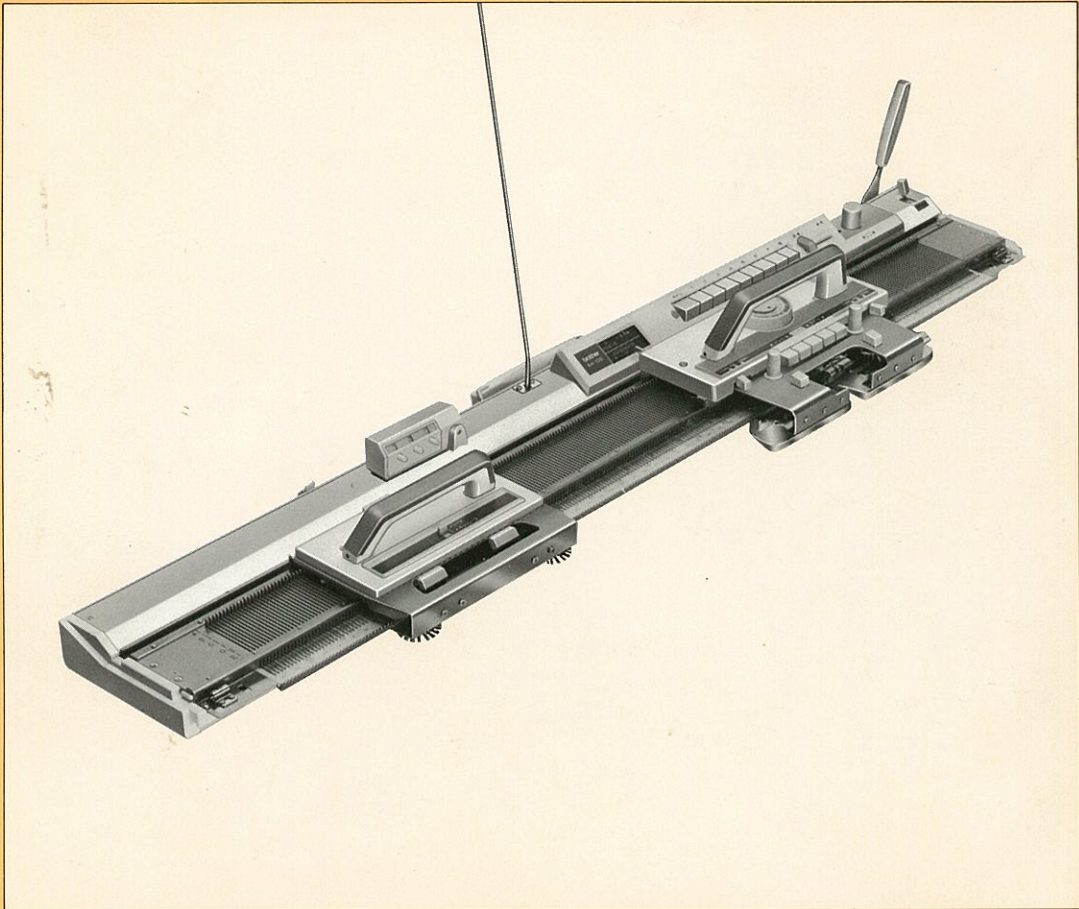
brother

細糸編機

テリカ

KH-120

取扱説明書



お買い上げまことにありがとうございます。
この製品のすばらしい性能と、その正しい使い方
をご理解いただくために、この《取扱説明書》を
最後までよくお読みください。
お読みになったあとは、必ず保存してください。

目

各部のなまえとはたらき	1
キャリジ	1
本体	1
付属品	2
組み立て方	3
しまい方	6
編み始め方	9
編む前の知識(編針の位置)	9
平編の編み方	9
模様編の編み方	11
パターンセンター	11
選針	11
選針ボタンと反転レバー	11
スライドダイヤルとスライドメーター	12
操作表	13
操作表の見方	13
1. 引上げ編	14
2. タック編	15
3. 総タック編	15
4. 引上タック編	16
5. すべり目編	16
6. 同時編込模様(その1)	17
7. 同時編込模様(その2)	18
8. スレッド編(その1)	19
9. スレッド編(その2)	19
10. 添糸編	20
11. アーガイル編	20
12. レース編・タックレース編	24
13. レース模様(その1)	26
14. レース模様(その2)	26
15. タックレース模様(その1)	27
16. タックレース模様(その2)	27

次

知っておきたいことがら	28
編地の表と裏	28
捨て編	28
編針が曲ったとき	28
編んでいる途中でキャリジが動かなくな ったとき	29
編んでいる途中でLキャリジが動かなくな ったとき	29
編地のほどき方	29
キャリジを空送りしたいとき	30
スレッドはけ車のとりかえ方	30
糸調子のとり方	30
編目の移し方・減らし目・増し目	31
1. ウツシの使い方	31
2. 減らし目	31
3. 増し目	31
4. 1目ゴム編	32
5. ガーター編	32
6. なわ編(交差模様)	33
7. ひも編	33
各種模様の引返し編	34
1. 平編の引返し編	34
2. 同時編込模様・すべり目編・スレッド編 の引返し編	35
3. 引上げ編の引返し編	35
4. 総タック編の引返し編	36
5. レース編の引返し編	38
手入れと保存	39
手入れ	39
保存	39
KR-110型のゴム編機をお持ちの場合	40

各部のなまえとはたらき

キャリジ

編目ダイヤル

使う毛糸の太さに応じて編目の大きさを調節する役目をします。数字が大きいくほど編まれる編目はあらかくなります。尚、糸が太くなるほどキャリジの操作は重くなります。

※KR-110（細目用ゴム編機）をこの編機と組み合わせて使われる場合は編目ダイヤルの合わせかたが多少異なりますので、40ページの編目ダイヤル比較早見表を参照してください。

★糸の種類によっては編目を細くした場合、標準ダイヤルであっても不具合を起こすことがあります。その場合は付属のカラーウェイト、パラフィン及び別売りのニイティンクスパー等をご使用下さい。

使用毛糸	ダイヤル
超極細	0～1
極細	1～3
細	3～5
合細	5～7
中細	7～10

数字または点を▼印に合わせます。

作用レバー

段数計を動かす役目をします。

ハンドル

カム切替ツマミ

ひらあみ、スレッド、同時あみの位置があり、模様により切替えて編針の通路を変える役目をします。

スレッドボタン

スレッド位置とひらあみ位置があり、スレッド位置にてスレッド編をします。

チェンジレバー

編針の通路を変える役目をします。

編地押工

編地浮き上り防止の役目をします。

編地押エツツミ

編地押工を締めつける役目をします。

カムボタン

模様編のときに使うボタンです。カムを切替えて編針の通路を変える役目をします。ひらあみボタンは押してすぐもどります。タック・すべりのボタンは押された位置に止まります。2つのボタンを押すときは2つ同時に押して下さい。

添糸口

添糸編のときに添糸となる糸を入れて編みます。

スレッドハケ車

スレッド編に使うハケ車です。取り外しができます。

地糸口

編糸を入れて編みます。

本体

選針切替レバー

（選針される編針の選針位置を切り替える役目をします）

パターンセンター

スライドダイヤル

（ボタンを押し替えずに選針位置をかえる役目をします）

反転レバー

（逆選針を行なう装置です）

選針ボタン

（模様編に使うボタンで、自由に押し替えが出来ます）

モッドボタン

（押してある選針ボタンを戻す役目をします）

スライドメーター

（どの針が選針されるか1目でわかります）

補助レール受板

（Lキャリジを使用するときの補助レールを取り付ける金具です）

クシバ

編針

（編目を作る役目をします）

ミノ板

（258本の編針を支えています）

付属品

糸取装置

編糸の供給を自動的に調節します。



補助レール

レース編・ダックレース編を編むときに使い、キャリジ落下防止の役目をします。



模様板 1/2 ~ 2/3

模様板 0 ~ 1/3

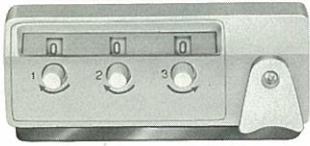


かぎ針



段数計

編み段数を記憶します。



抜き糸

編出し・捨て編の区別に使います。



タッピ

ゴム編・ガーター編を編むときや、編目を直すときに使います。



減らし目・増し目などを行なうときに使います。

取付金具

編機をテーブルに固定するときに使います。



編出し

編出しを行なうときに使います。



トジワイヤー



編針(予備)



針袋



パラフィン

すべりの悪い糸を編むときに使用します。



カラーウェイト

編地押エの役目を助ける働きをするオモリです。



手バケ

編機を手入れするときに使います。



手入れ油

編機を手入れするときに使います。

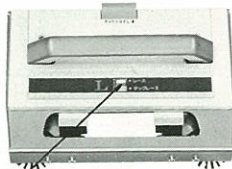


パラフィンケース



Lキャリジ

自動目移し装置です。



L切替ツマミ

レース編・ダックレース編のとき編み方により切替ます。

バリエ用取付金

バリエ用ニットリーダーを取り付けるときに使います。



KL-113型用取付金

KH-111、KH-701、KH-801、KH-601用(別売り)ニットリーダーを取り付けるときに使います。

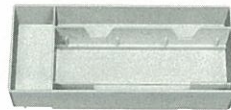


糸案内

同時編・スレッド編のときに配色糸を案内する役目をします。



部品箱



部品箱ふた

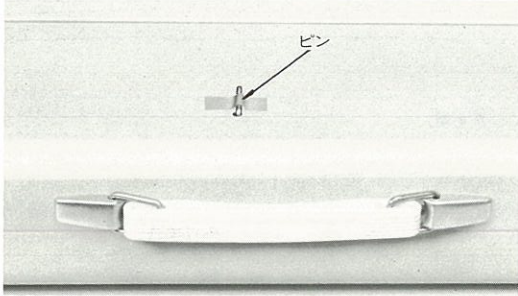


セットレバー

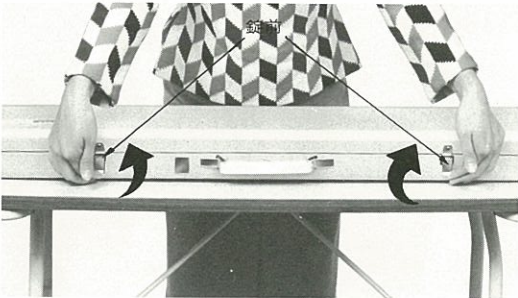
(編針を選針するときに使うレバーです)



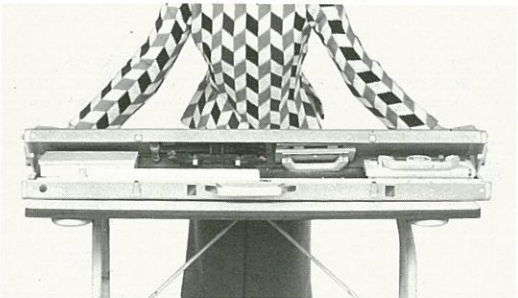
組み立て方



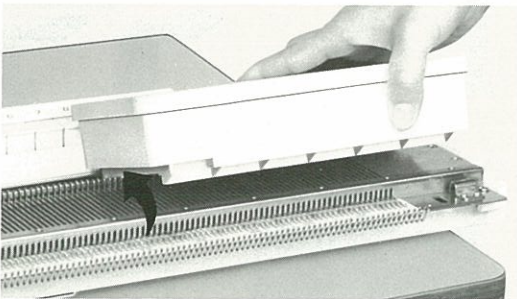
(1) 編機を裏がえしにして、輸送用ピンをはずします。



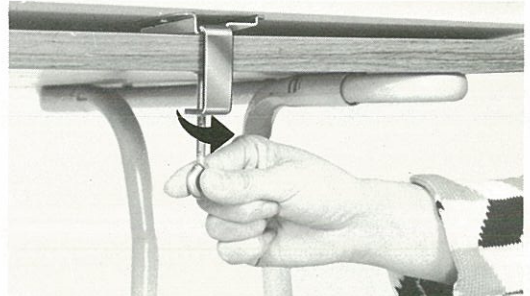
(2) 取手が向こう側になるようにおいて、錠前を2個共はずします。



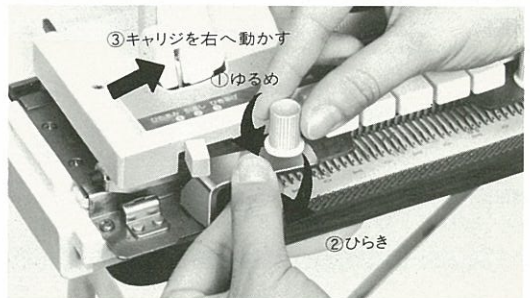
(3) ケースの取手側を持ち上げ、手前に引き、はずします。



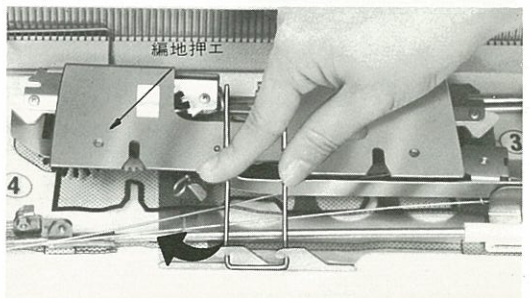
(4) 部品箱をはずします。



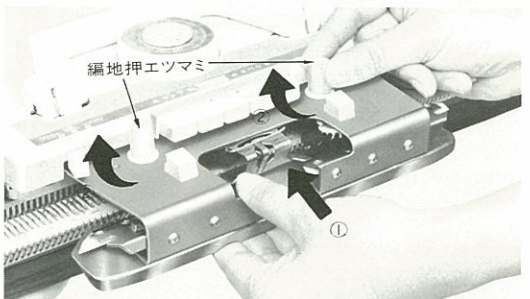
(5) 部品箱から取付金具2個を取り出し、テーブルに固定します。



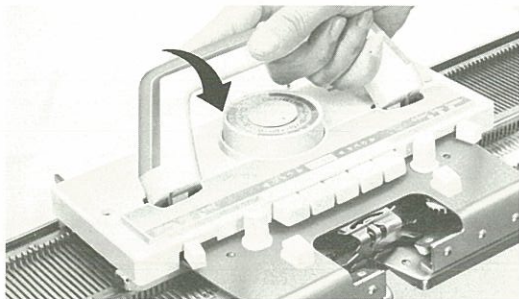
(6) キャリジ止め金をはずします。



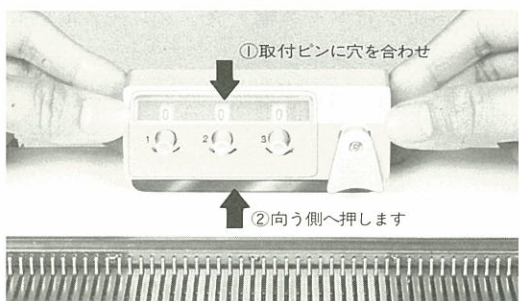
(7) 押エバネをはずして、編地押エを取り出します。



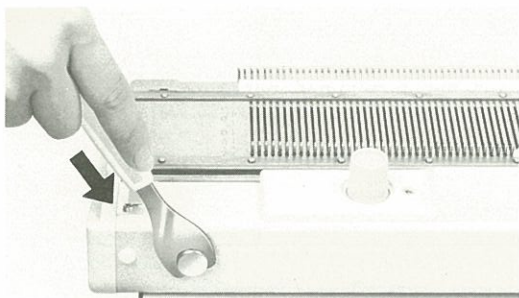
(8) 編地押エツマミをゆるめてから、編地押エツマミの下にいっぱい差し込み、ガタなく入るのを確かめて締め付けます。



(9) ハンドルを手前に起こします。



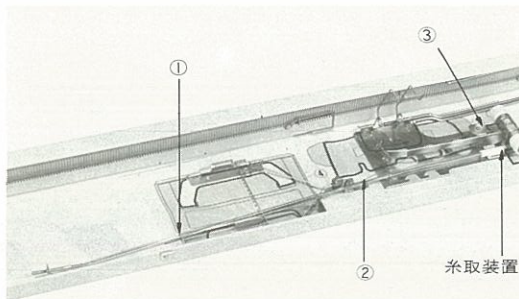
(10) 部品箱から段数計を取り出し、写真のように取り付けます。



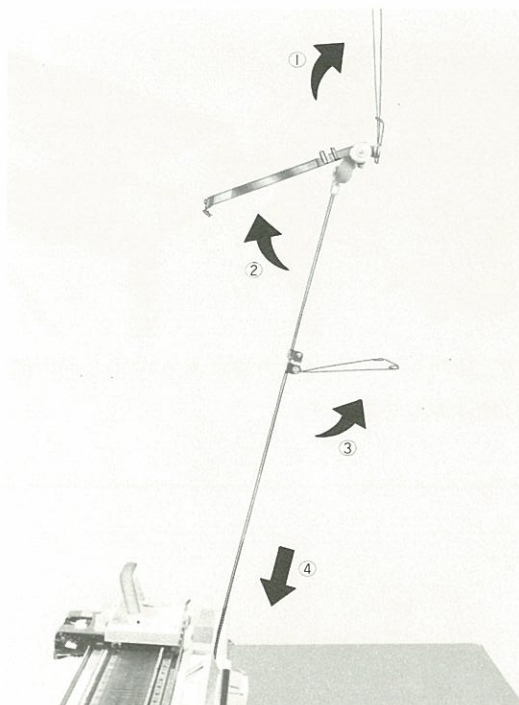
(11) セットレバーをケース右側後部の取付軸に差し込みます。



(12) Lキャリジの後側にあるLキャリジの外しボタンを押しながらLキャリジを取り出し、ハンドルを手前に起こします。



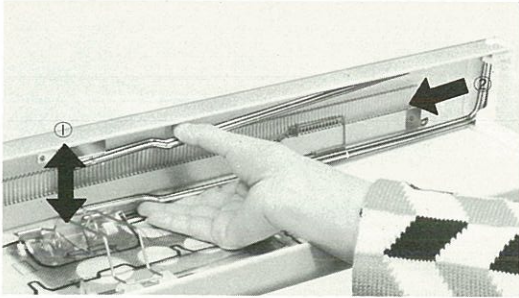
(13) ケースフタから糸取装置を①②③の順序で取りはずします。



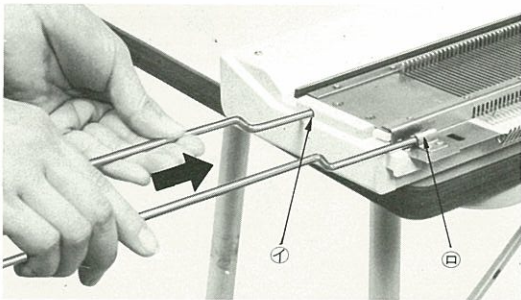
(14) 糸取装置を①②③④の順序で取り付けます。



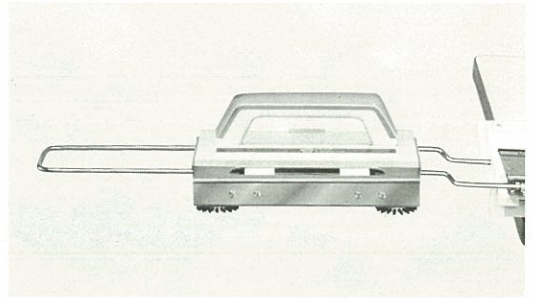
(15) ケースの編出シ押エバネ (2ヶ所) を開き編出シを取り出します。



(16) ケースから矢印のように補助レールをはずします。



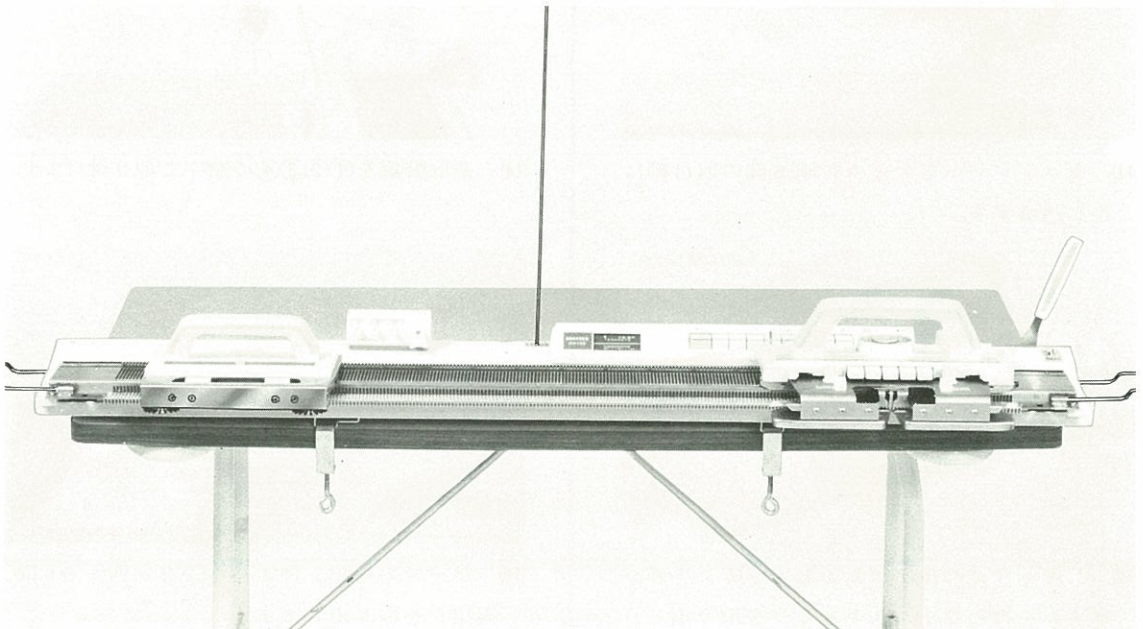
(17) 補助レールを編機の端にある穴①と②の部分に差し込みます。



(18) Lキャリジを左側の補助レールにのせます。
(模様によってのせる方向は異なります。)

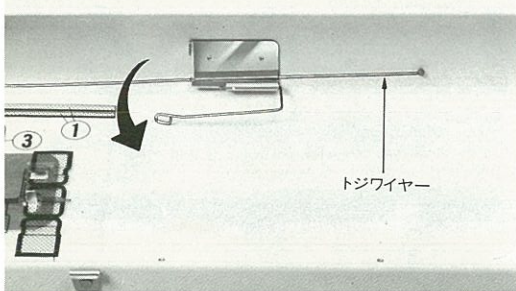
※Lキャリジはレース編・タックレース編を編むときのみ使います。

詳しくは24～25頁を参照してください。

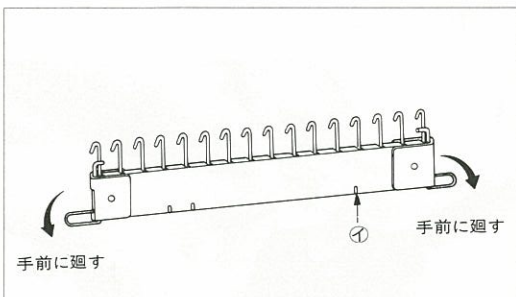


(19) 編機を組み立てた状態を示します。

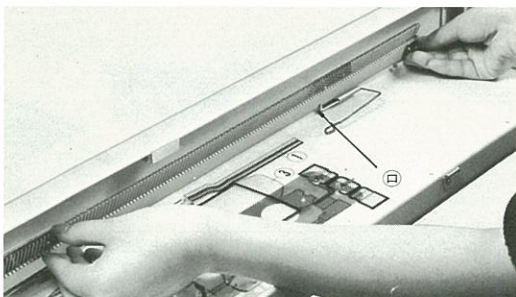
しまい方



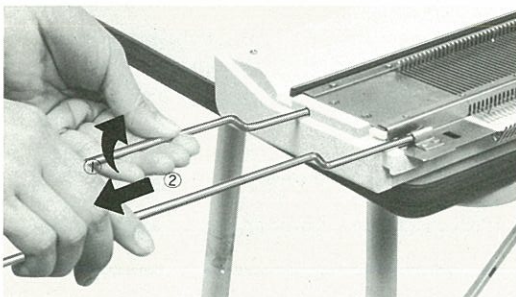
(1) 押エバネを開き、トジワイヤーを入れます。



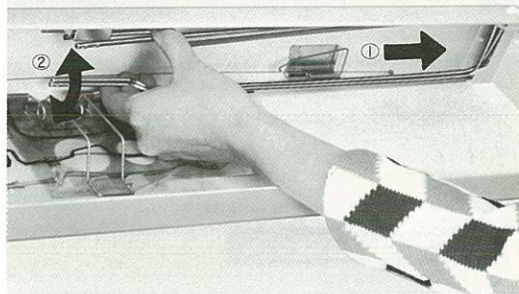
(2) 図のように編出シ両端のレバーを手前にまわし編出シ歯の曲がった方を向こう側にします。



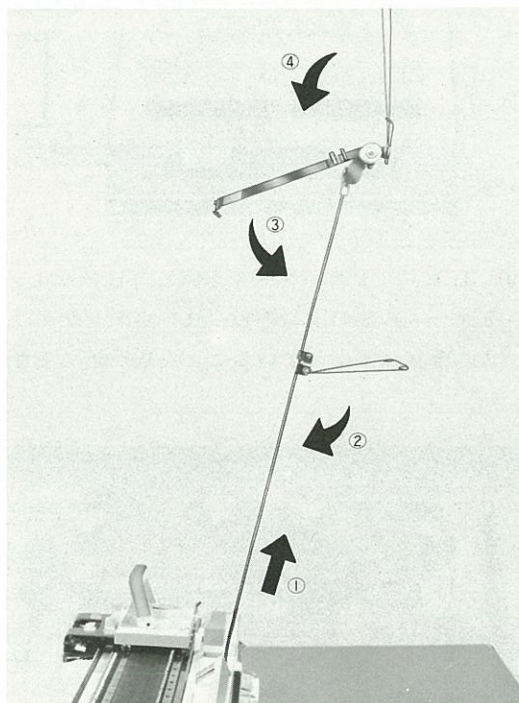
(3) 編出シの①部(上図参照)をケース金具㊸部に合わせて格納し、編出シ押エバネをかけます。



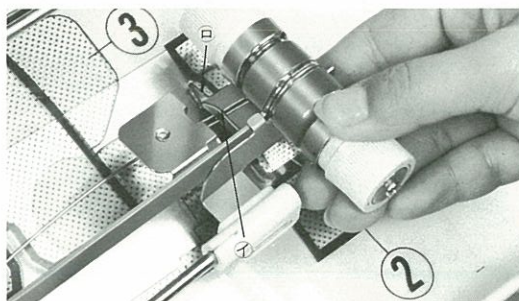
(4) 補助レールを少し上にあげ、そのまま引張って取りはずします。



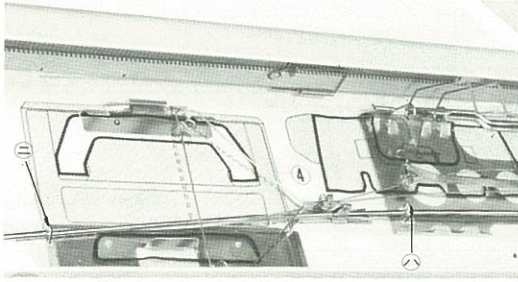
(5) 補助レールを2本揃え、両端の曲った部分を向う側にして①、②の順に納めます。



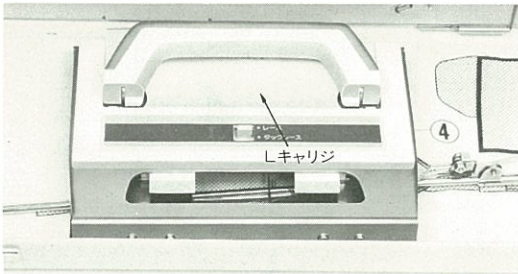
(6) 糸取装置を①②③④の順序で取りはずします。



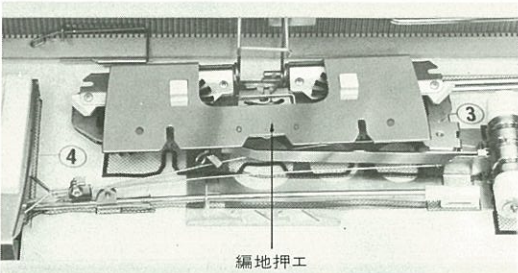
(7) 押エバネを開き、糸取装置頭部の①部を、ケースの金具㊸部の下にはめ込みます。



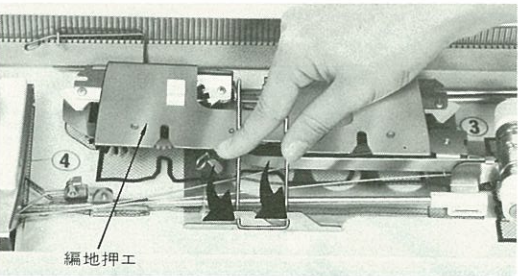
(8) 糸取棒と糸取バネを、ケースの金具④の向こう側にはめ込み、金具⑤の手前側にかけ、後糸案内を絵の位置に合わせて格納します。



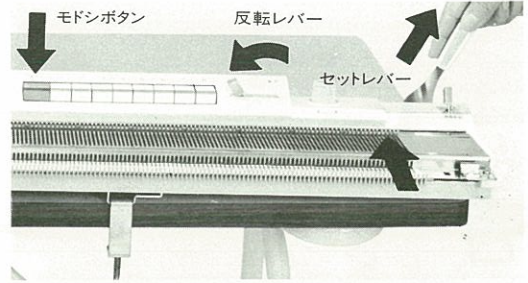
(9) Lキャリジのハンドルを倒し、Lキャリジをケースの絵の上に納め、外シボタンがケースの金具にかかっていることを確かめて下さい。



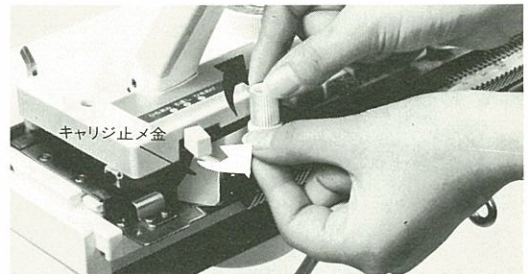
(10) 編地押エを、ケースの絵の上に正しく置きます。



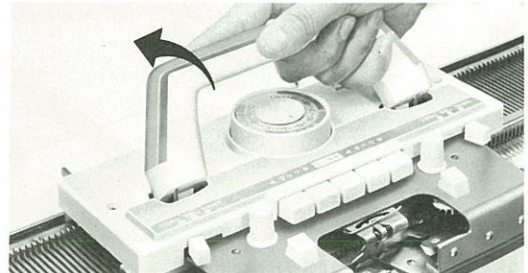
(11) 押エバネをかけます。



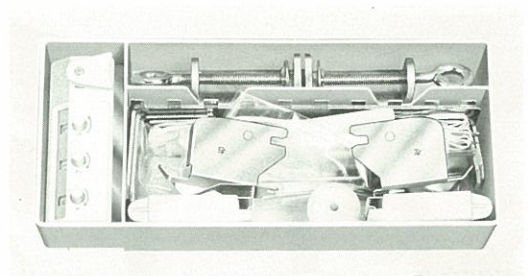
(12) セットレバーをはずし、モードシボタンを押し、反転レバーを正に切換え、編針を全部A位置に戻します。



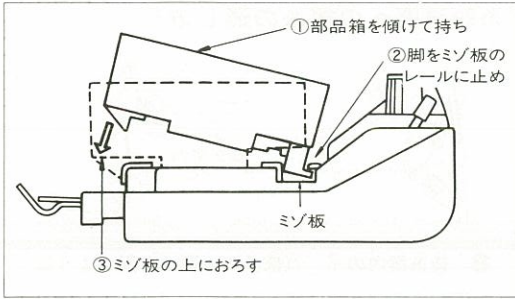
(13) キャリジ止め金をミゾ板左端の穴に入れ、ツマミを締めてキャリジを固定します。



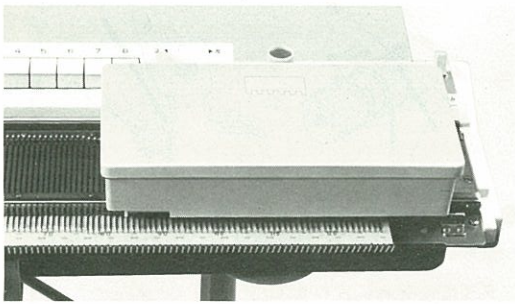
(14) キャリジのハンドルを倒します。



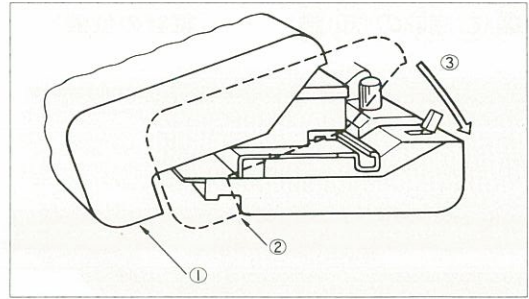
(15) 段数計・取付金具を編機からはずし、セットレバー・カラーウェイトなどの付属品と一諸に写真のように部品箱へ納めます。



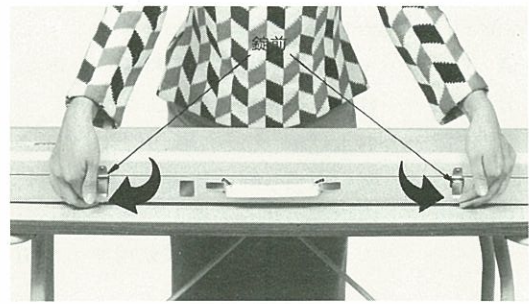
(16) 部品箱を図のようにミゾ板に取り付けます。



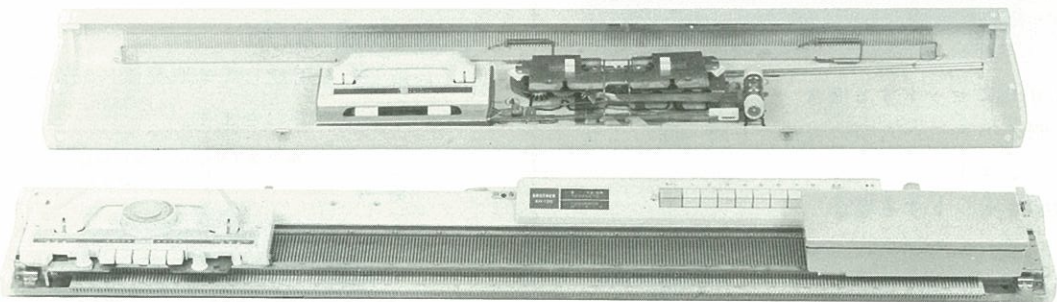
(17) 部品箱をミゾ板右側の針目盛80に箱の左端を合わせて取り付け、部品箱のフタをします。



(18) ケースフタの両端を手で持ってフタをします。



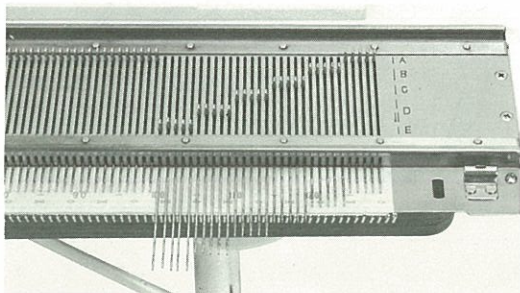
(19) ケース錠前をかけます。



※ ケースと本体の格納状態を示します。

編み始め方

編む前の知識……《編針の位置》

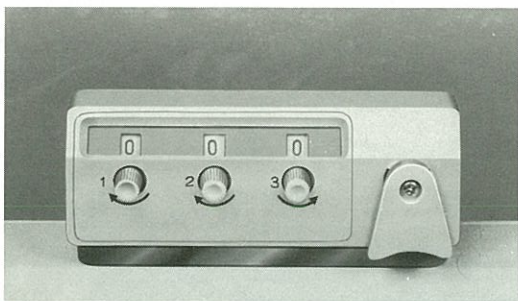


★ミゾ板にはA・B・C・DI・DII・Eの各位置の刻印があります。

各位置は編針の状態を表わしています。

- A 位置……キャリジを操作しても編めません。
- B 位置……普通この位置で使用します。
- C 位置……引上げ編、タック編、引上げタック編の引返し編に使用する位置です。
- D I 位置……模様編の場合の選針位置です。
またアーガイル編に使用する位置としても使います。
- D II 位置……同時編込模様の場合の選針位置です。
- E 位置……引上げ編、引返し編に使う位置です。

《段数計》



●000にセットする場合

左側のつまみから順に矢印の方向へ回してセットします。

●数字をセットする場合

直したいケタのつまみを回してセットします。

★段数計を使うときは、キャリジの作動レバーを下げておきます。

キャリジを左右に動かす毎に(1段編む毎に)数字がひとつずつ送られます。

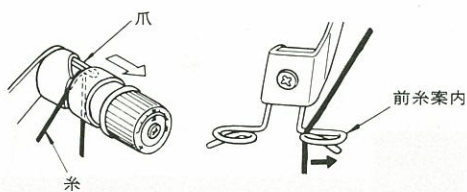
★段数計を使わないときは、キャリジの作動レバーを上げておきます。

《糸取装置への編糸の通し方》



① 後糸案内の①、②部分に外側から図のように通します。

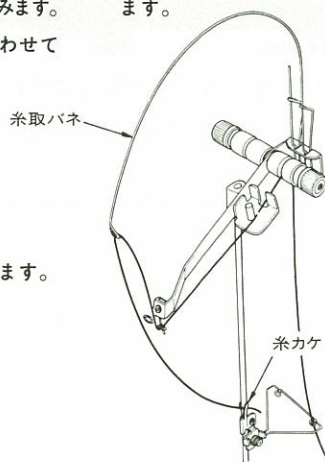
※①配色糸等の別糸を通します。②地糸を通します。



② 爪の内側に糸を通し、糸取調子皿にはさみます。

ダイヤルを▲に合わせておきます。

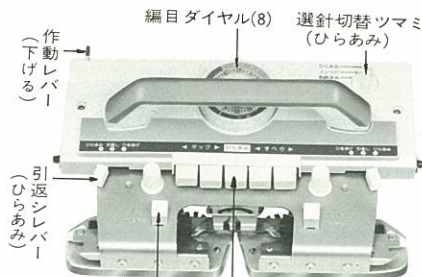
③ 前糸案内に糸を通します。



④ 糸取バネに通します。

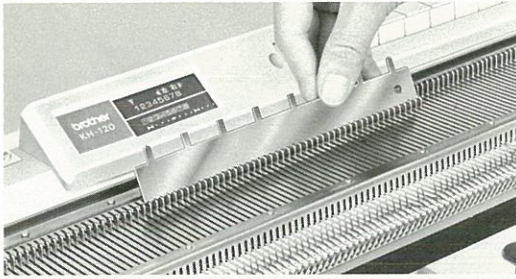
平編の編み方

(1) 合細糸を用意して糸取装置に編糸を通し糸カケに休めておきます。

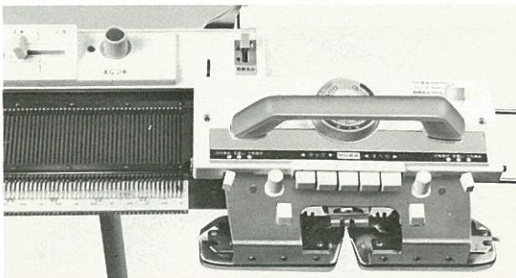


スレッドレバー(ひらあみ) カムボタン(ひらあみ)

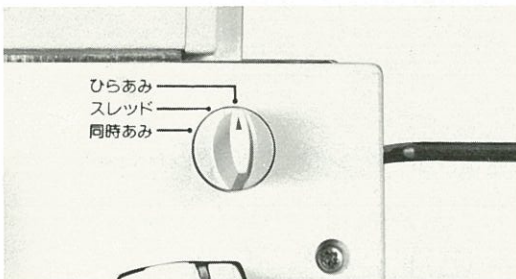
(2) キャリジを写真のようにセットします。



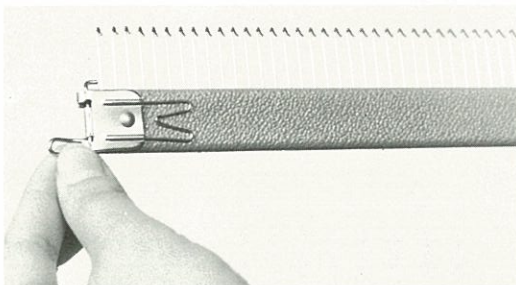
(3) 左50～右50の間の編針をB位置に出します。



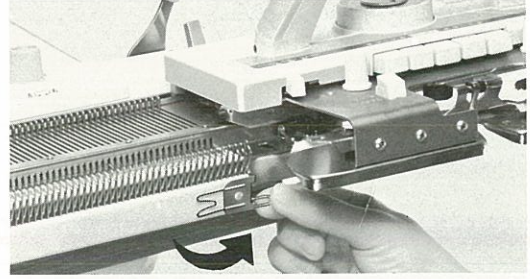
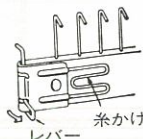
(4) 針を揃えるためにカム切替ツマミを同時あみの位置に合わせ、キャリジを1～2回左右に動かし、ミゾ板の右端に置きます。



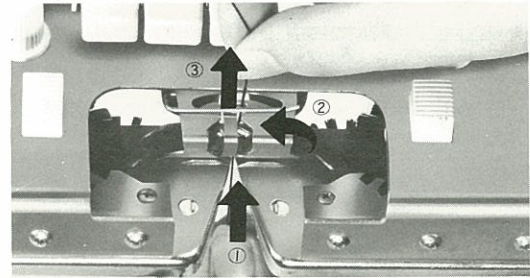
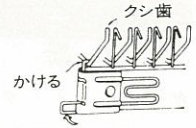
(5) その後カム切替ツマミをひらあみの位置にもどしておきます。



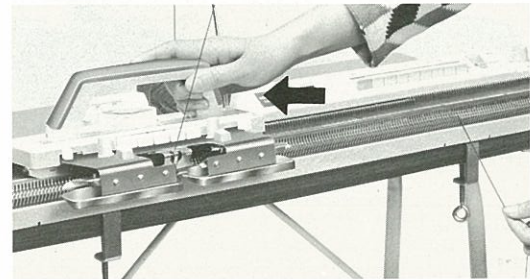
(6) 編出シを糸かけが手前になるように持ち、両端のレバーを手前に回します。



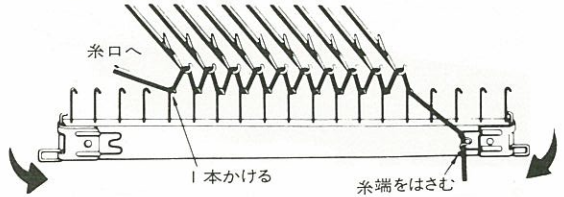
(7) 左右共両端のクシバにかけます。



(8) 編糸を糸かけからはずし糸糸口(右側の穴)に、編糸を張りながら①、②、③の順で矢印方向に押し通します。



(9) 糸端を指でつまみながら、キャリジをゆっくり右から左端まで動かします。編糸が編針にかかります。

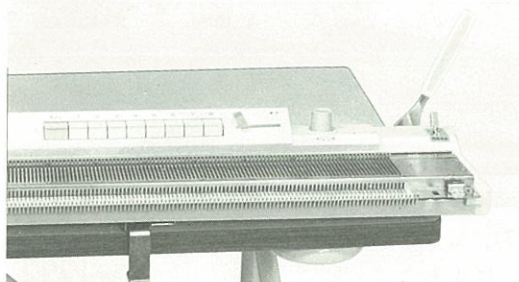


(10) 編出シ両端のレバーを手前(矢印)にまわし編出シを静かに引き下げ、端糸を編出シのカギに1本だけかけます。

(11) 編目ダイヤルを5に合わせてキャリジを左右に動かしますと平編が編めます。

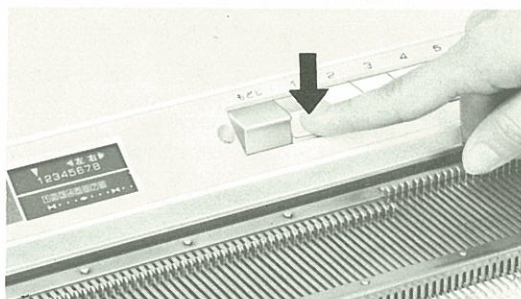
模様編の編み方

パターンセンター

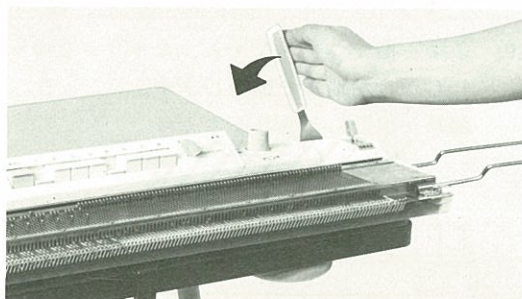


- ★パターンセンターは、色々な模様を編むために編針を選ぶ役目をします。
- ★模様編の種類には引上げ編、タック編、同時編込、スレッド編などがあり、各々選針ボタンの操作により、限りない模様を編み出すことができます。

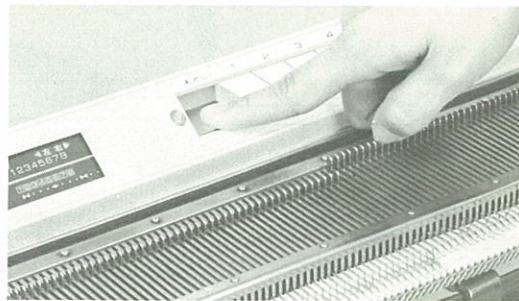
選針



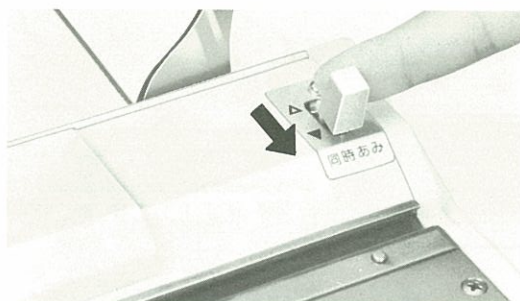
- (1) 適当な幅に編針をB位置に出し、選針ボタンを押します。



- (2) セットレバーを左へ止まるまで倒しますと編針がD I位置に選針されます。
- (3) キャリジを平編の状態にして1回動かしますと、編針がB位置に戻ります。
- (4) セットレバーを再び倒しますと、同じ編針が選針できます。

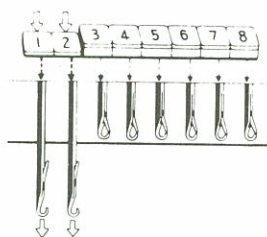


- (5) モドシボタンを押しますと、押してあった選針ボタンが全部戻ります。



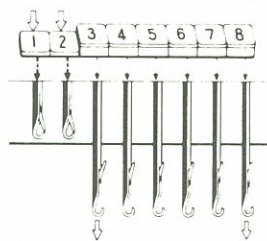
- (6) 選針切替レバーを手前に切替ますと、セットレバーを倒したとき、編針が大きく動きD II位置に選針されます。同時編込の場合に使います。

選針ボタンと反転レバー



正 反

- ★反転レバーが正のときは、押してあるボタンの編針が選針されます。



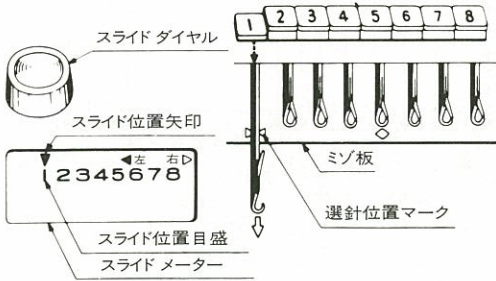
正 反

- ★反転レバーが反のときは、押してないボタンの編針が選針されます。

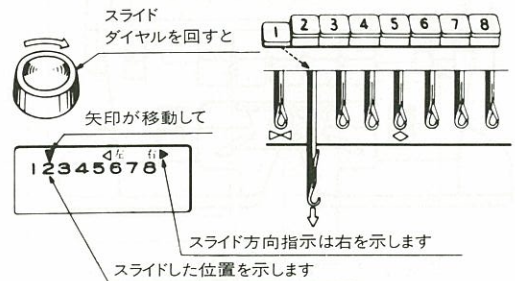
スライドダイヤルとスライドメーター

★この装置は選針ボタンを押し変えずに選針位置を移動する役目をします。
ジグザグ模様や、斜めの模様を編むときに使います。

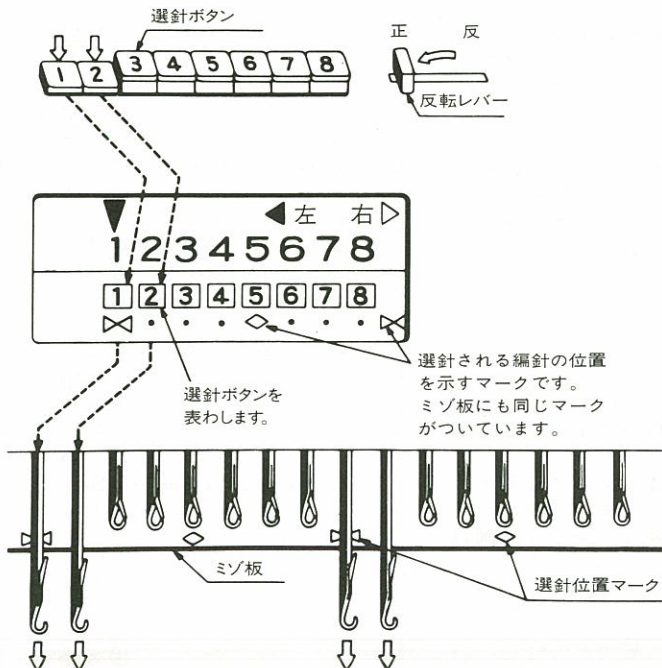
(1) ①の選針ボタンを押して、スライド位置目盛を1に合わせ選針しますと、みぞ板の▽マークの編針が選針されます。



(2) 次にスライド位置目盛を2に合わせ選針しますと、▽マークの右隣の編針が選針されます。
スライド方向指示は、スライドダイヤルを動かした方向を記憶表示します。

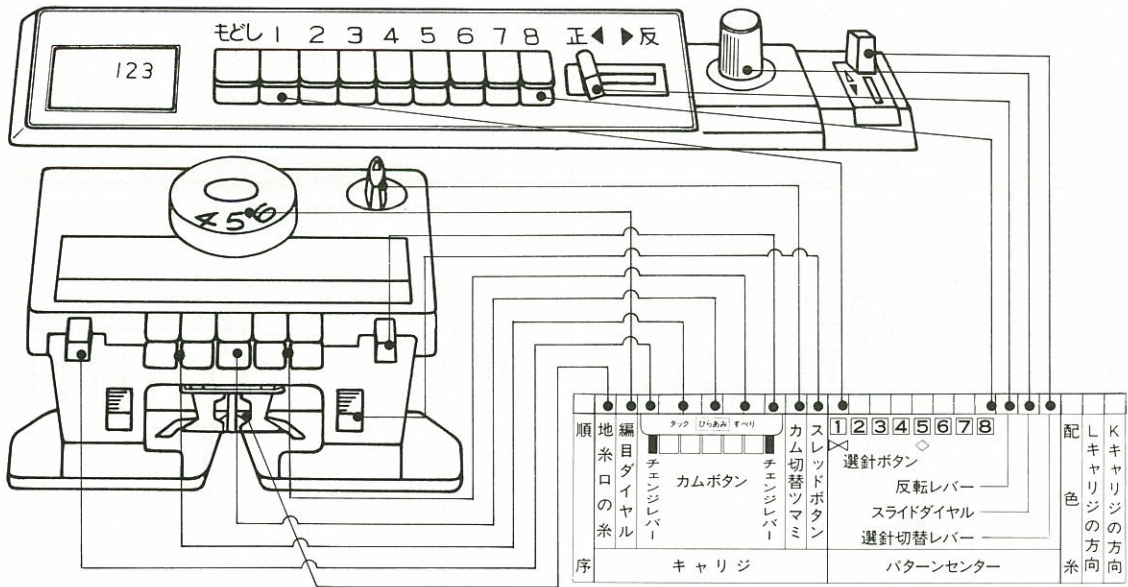


(3) 選針した場合の押したボタンと選針位置の関係は、下の図のようになります。



操 作 表

★この説明書のパターンセンターを使った模様編の編み方は、すべて操作表で表わしてあります。



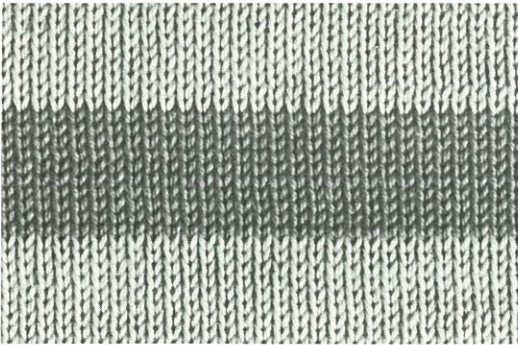
操作表の見方

- | | |
|--|---|
| <p>順 順……数字の順に下から操作して行きます。
数字の横の欄に記号、数字、文字がある場合は、そこで切り替え操作が必要なことを示しています。
欄は左から見てその順に切り替え操作をして下さい。
一模様済みましたら1に戻ってくりかえします。</p> <p>地糸口の糸……糸取装置から地糸口に入れる編糸を示します。地糸をa、b、c…で表わしています。</p> <p>編目ダイヤル……編目ダイヤルを、この数字に合わせます。数字は表示の糸に合わせてありますから、選ぶ糸の太さに応じて加減して下さい。</p> <p>カムボタン……記号の位置のカムボタンを押します。</p> <p>チェンジレバー……チェンジレバーを記号の位置に合わせます。</p> <p>カム切替ツマミ……カム切替ツマミを記号の位置に合わせます。ひはひらあみ、スはスレッド、同は同時あみを示します。</p> <p>スレッドボタン……スレッドボタンを記号の位置に切り替えます。</p> | <p>選針ボタン……選針ボタンの押し方と、セットレバーの操作を示しています。
セットレバーは反転レバー、スライドダイヤル、選針切替レバーを切り替えてから操作（選針）して下さい。
イ) 数字の入った記号□の場合、そのボタンを押し（または押し替えて）選針します。
ロ) 数字のない記号■の場合は、ボタンはそのままで、選針します。
ハ) 記号がなく、空欄の場合は選針はいりません。</p> <p>反転レバー……反転レバーを記号の位置に切り替えます。</p> <p>スライドダイヤル……スライドダイヤルを回して、スライド目盛をこの数字に合わせます。</p> <p>選針切替レバー……選針切替レバーを記号の位置に切り替えます。</p> <p>配糸……記号のある場合は、クシバより前に出ている編針の上にキャリジのある側から編糸を渡します。編糸の種類をイ、ロ、ハ…で表わしています。</p> <p>Lキャリジの方向……矢印方向にLキャリジを動かして下さい。</p> <p>Kキャリジ方向……矢印の通りにKキャリジを動かして下さい。
→は1回、↺は2回（1往復）です。
編み始めはKキャリジをミゾ板の右端において下さい。</p> |
|--|---|

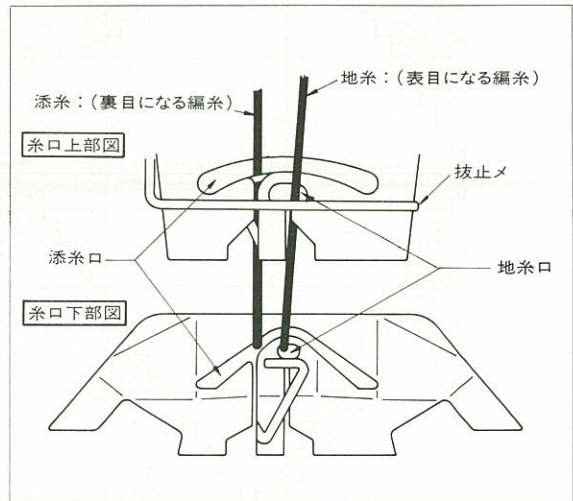
10. 添糸編

添糸編はブラザー編機にとり入れた特色の一つです。

◎添糸編とは色の異なる2本の編糸を用い、一方の編糸が表目側に、もう一方の編糸が裏目側にあらわれるような編み方をいいます。



- (1) 地糸だけで数段ひらあみを編みます。
- (2) 添糸は添糸口に通し、ひらあみを編むのと同じ操作で編みます。



- ※編地の両端に、カラーウェイトをかけて下さい。
- ※地糸は表目となり、添糸は裏目となります。
- ※編途中で糸口の編糸を交換すれば裏表の色(糸)が反転します。

編目ダイヤル	{	細 と 細	9 ~ 10
		細 と 極細	9 ~ 10
		極細 と 極細	8 ~ 9

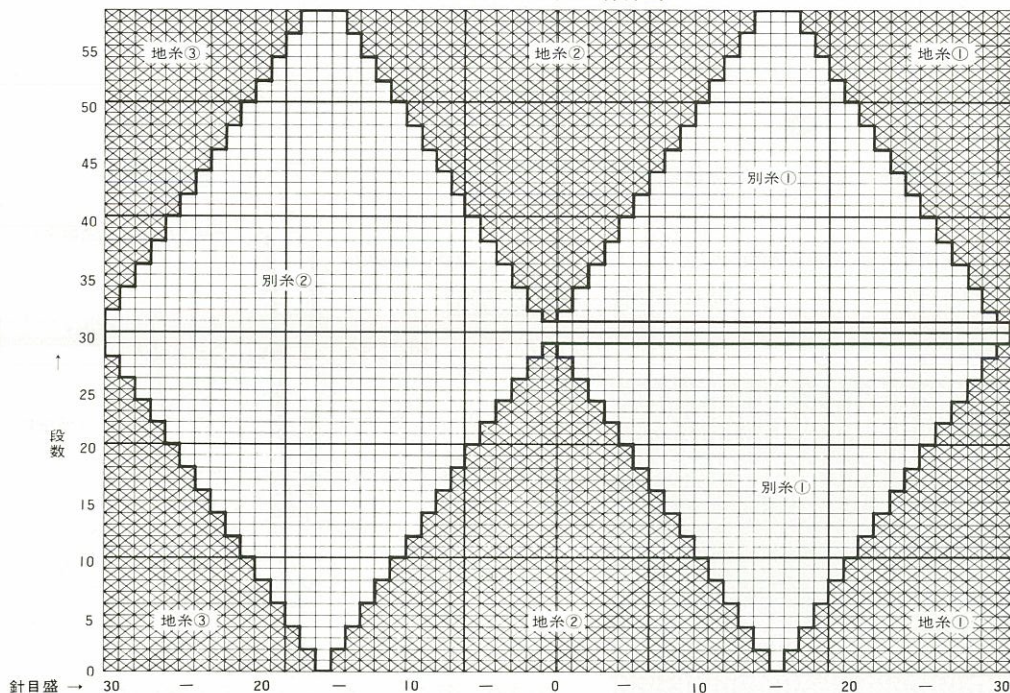
11. アーガイル編

- ★裏地に編糸が渡らない絵模様が編めます。
- ★1コースに何色でも編めてしかも模様はお好みの大きさに編むことができます。



- ★糸案内には編糸は通しませんが、D I 位置に出された編針のペラが閉じて、編目が落ちるのを少なくするために、糸案内を使用して下さい。
- ★アーガイル編は方眼紙に模様の編図をあらかじめ書いておきますと編むときに便利です。
- ※ここではアーガイル編図に従い、2色の場合で編んでみます。

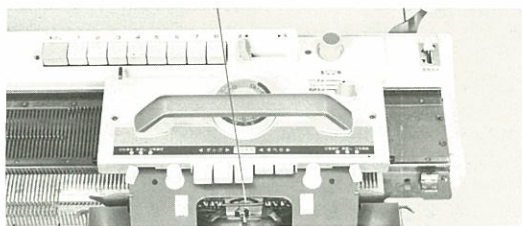
アーガイル編図



※このアーガイル編は2色で編んでみます。

別糸①と別糸②は同色です。

- (1) まず付属の糸案内を編地押エに取り付けて下さい。
(取付け方は17ページ参照)
- (2) 平編を数段編み、キャリジを左端に止めます。



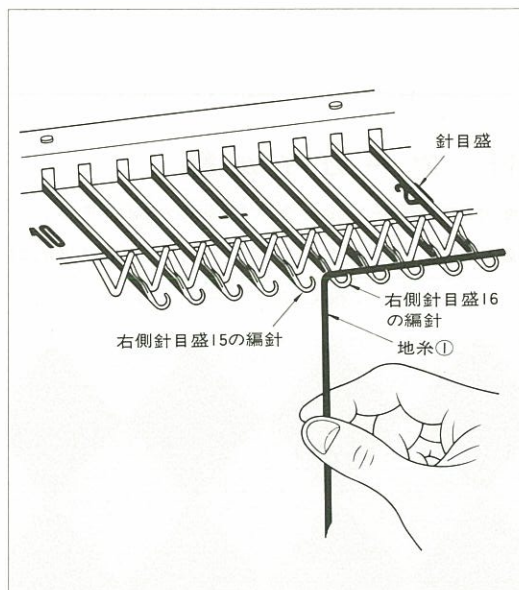
- (3) カム切替ツマミを同時あみにしてキャリジをそのまま右端へ移動させ、カムボタンのすべり左右を押します。
(編地のかかっている編針はすべてDI位置)に針出しされます。

※編針のペラが閉じていますと編目が落ちますからペラを開いて下さい。……以下毎段確認して下さい。

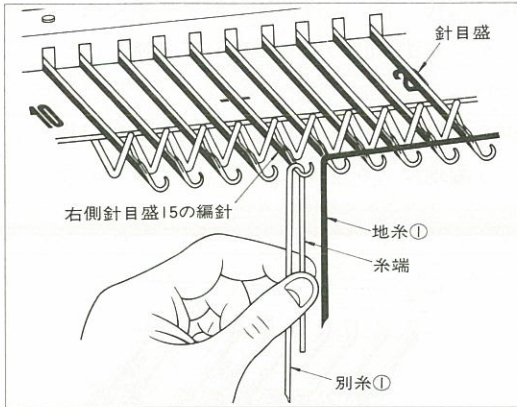
- (4) 地糸①を糸取装置と糸口からはずし、別糸と一緒に足元に揃えます。

※ここでは地糸3本、別糸2本を用意します。

(編糸は、色数に関係なく編糸を交換する)回数により編糸をご用意下さい。

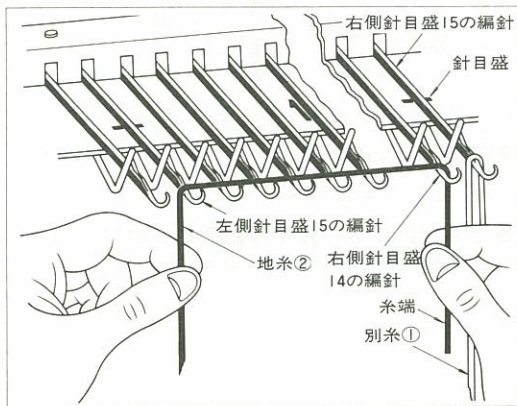


- (5) 糸取装置と糸口からはずした地糸①をアーガイル編図の1段目に従って右側針目盛16と15の編針の中間(糸交換位置)まで編針の上に渡し、下に垂らします。

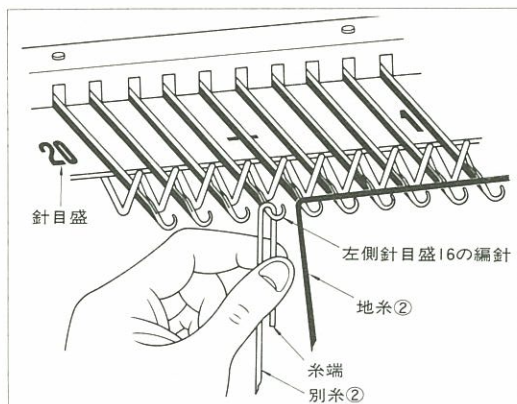


(6) 地糸①を垂らした同じ位置に別糸①の糸端を垂らし右側針目盛15の編針のみに別糸①を渡します。

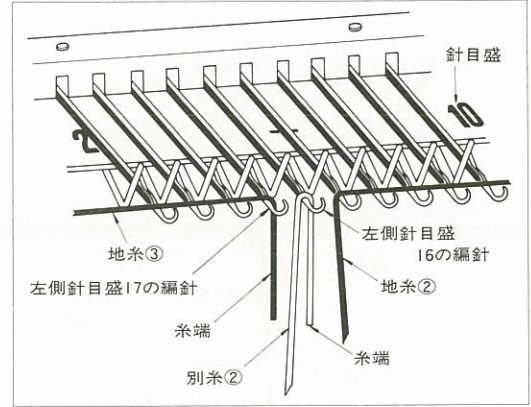
(7) 地糸②の糸端を右側針目盛15と14の間に垂らし、左側針目盛15の編針の上まで渡します。



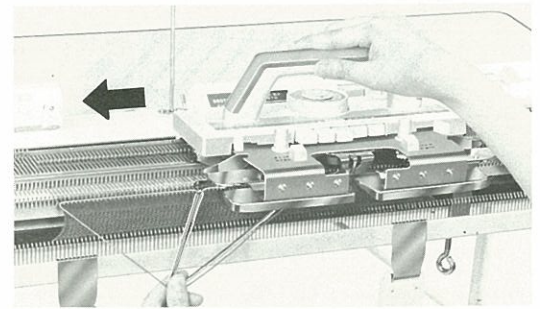
(8) 渡した地糸②は左側針目盛15と16の編針の間に垂らします。



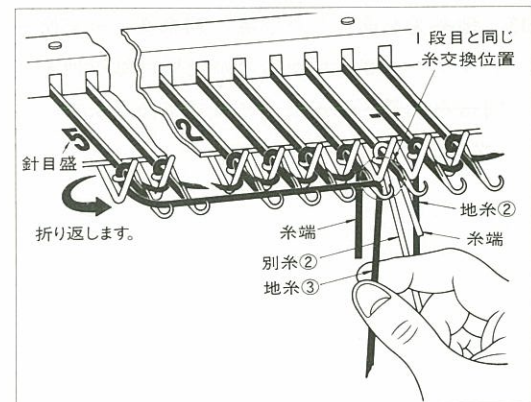
(9) 別糸②の糸端を同じ位置に垂らして左側針目盛16の編針のみに渡します。



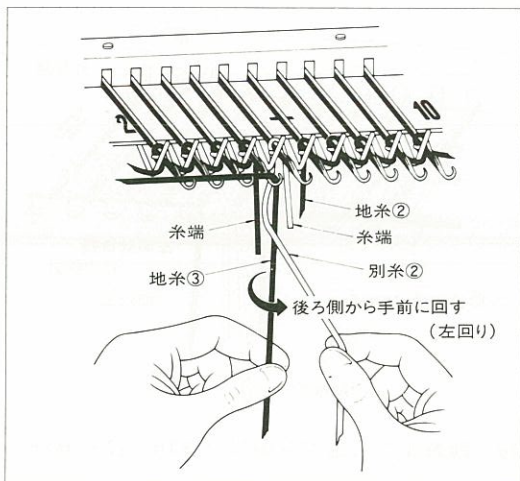
(10) 地糸③の糸端を左側針目盛16と17の編針の中間(糸交換位置)に垂らし残りの編針全てに渡します。



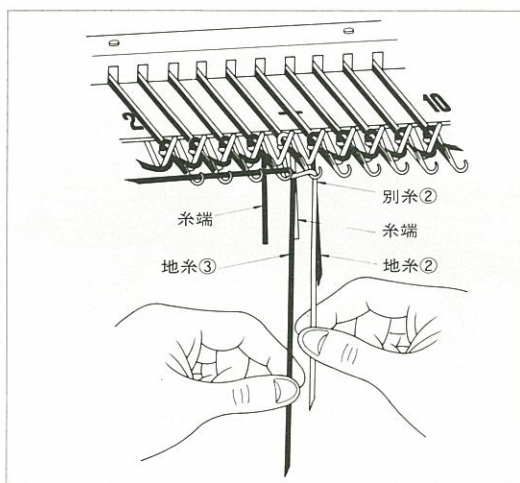
(11) 垂らした編糸を指でかるくつまみながらキヤリジを左側に進行させ1段編みます。



(12) 1段編み終わりましたら地糸③を1段目と同じ糸交換位置(左側針目盛17と16の編針の中間)まで折り返し編針の上に渡して垂らします。



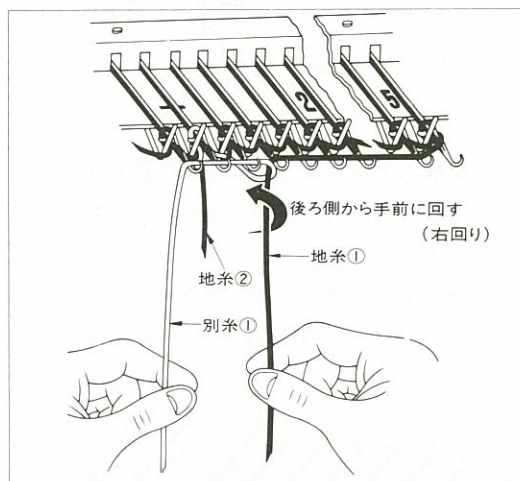
※偶数段はこの方法で編糸を交差させて下さい。



(13) 地糸③を垂らした位置で別糸②と糸交換をしますが、2段目からの糸交換は毎段地糸と別糸を交差させるようにして交換します。
(図参照)

(14) 以後、各糸交換位置に於いて糸交換しますが、方法は(13)の図を参照して交換してください。

※糸交換位置における編糸の交差は糸交換により編地に穴が空かないようにするためです。

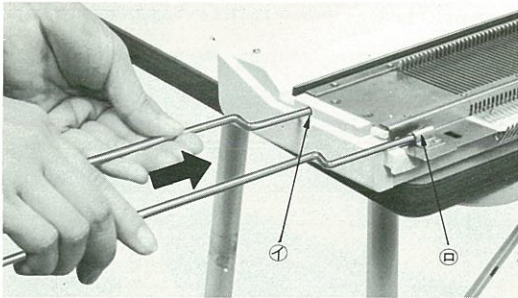


※奇数段はこの方法で編糸を交差させて下さい。
(ただし、1段目は除きます。)

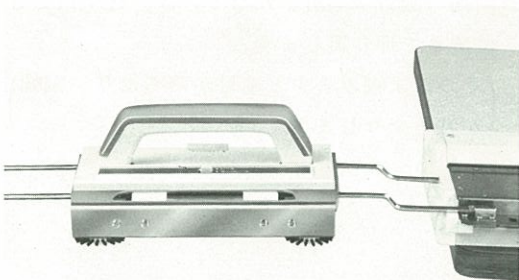
※この図は《アーガイル編図》3段目の初めての糸交換を説明しています。

12. レース編・タックレース編

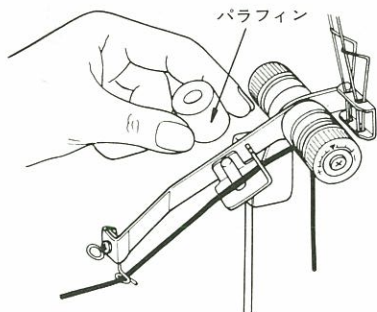
◆レース編・タックレース編の準備



- (1) 補助レールを①、②の部分に差し込んで取り付けます。



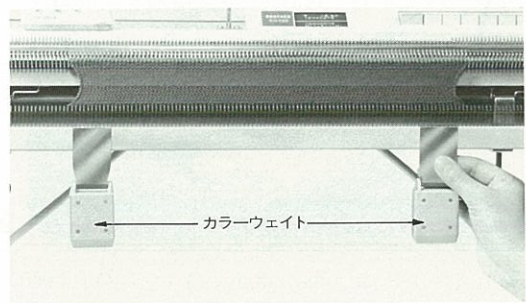
- (2) Lキャリジを一旦左の補助レールに正しくのせます。



- (3) レース編、タックレース編をするときはパラフィンを糸取装置に取り付けます。

使用糸	ダイヤル目盛
極細毛糸	5 ~ 6
綿・化繊レース糸	6 ~ 7
細・合細毛糸	6 ~ 7

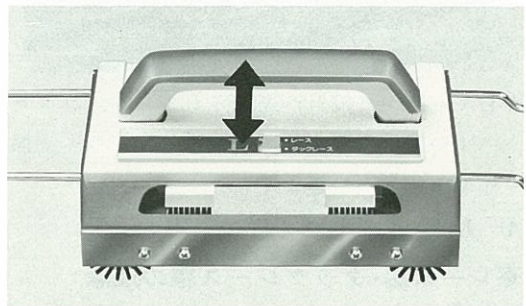
- (4) レース編、タックレース編の場合は、編目ダイヤルを上表のように合わせます。



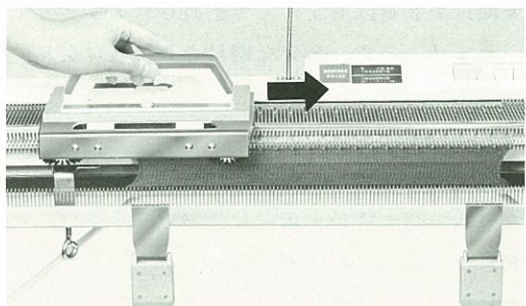
- (5) 平編を数段編み、編出シ板にカラーウェイトを平均にかけます。

※カラーウェイトは、編地が長くなったらかけなおして下さい。

◆レース編・タックレース編の編み方

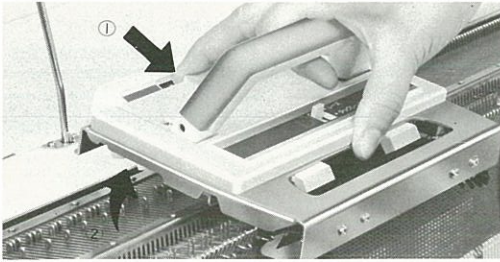


- (1) L切替ツマミを編む模様に切り替えます。レース編のときは<レース>、タックレース編のときは<タックレース>にそれぞれツマミを切り替えます。
- (2) 穴をあける位置の選針ボタンを押してセットレバーで選針します。
(端針が選針された場合はB位置へ戻します)

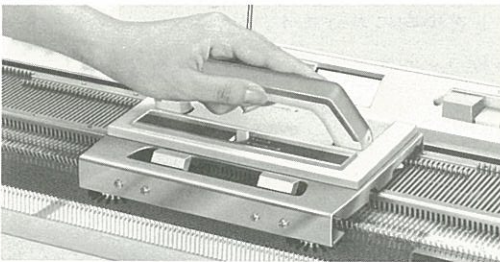


- (3) Lキャリジを、ゆっくり動かし編目を移し左側に戻ります。

★Lキャリジが編んでいる途中で動かなくなった場合は、29ページをご覧ください。



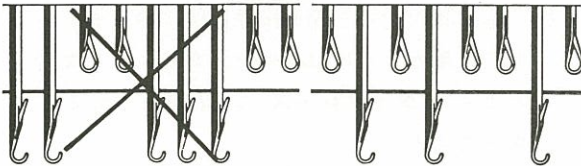
★Lキャリジは、外シボタンをいっばいに押せばミゾ板の途中でもはずせます。



★Lキャリジは編針が選針されていなければレールからはずさなくても編地の反対側へ空操作することができます。

(4) Kキャリジで編みます。

◆レース編・タックレース編の注意



(悪い)

(良い)

★編針が2本以上ならんで選針されますと、編めませんので、余分な編針をB位置に戻して下さい。

★レース編・タックレース編の場合は、選針切替レバーを必ず△印に合わせて下さい。

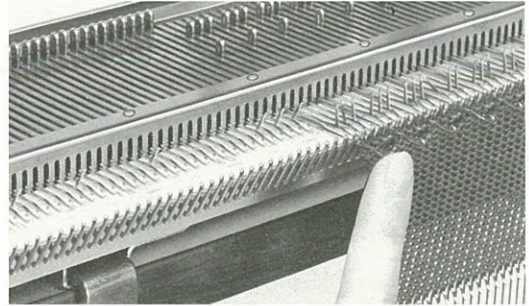
★反転レバーは必ず正にしておいて下さい。

★Kキャリジは最初右において下さい。

★Lキャリジは左において下さい。

★Kキャリジは、いつもLキャリジの後で操作します。

※編ゲージが特に細かい時、1、3、5、7(1/2)のレース編、タックレース編では、まず1、5の選針でLキャリジを操作し、次に3、7の選針でLキャリジを操作して編みます。



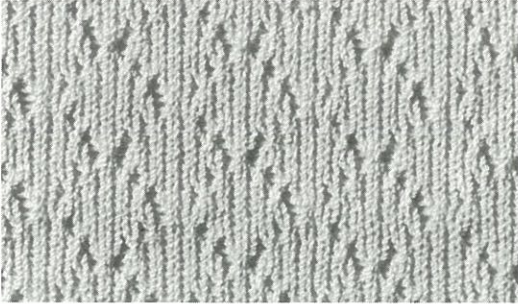
※両端の編針が選針されたときは、必ず指でB位置まで押し戻します。

(そのまま編みますと端目が落ちたり、編幅が減ったりします。)

15. タックレース模様 (その1)

デリカの素適なレース編の特長に加え、Lキャリジによるタックレース編の機能を付加しましたので、一般のレース模様とは全く感じの違った風合いがお楽しみいただけます。

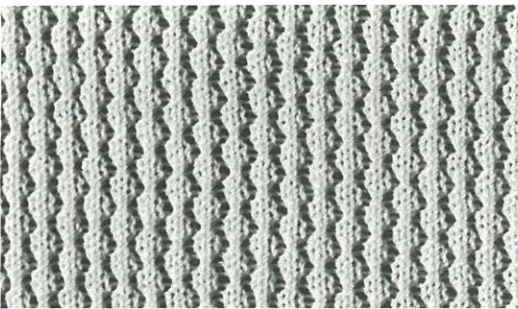
操作方法はこれまでのレース編と同じでツマミの切り替えだけで簡単に編めます。



糸……サマーヤーン

※操作表は14. レース模様(その2)と同じです。

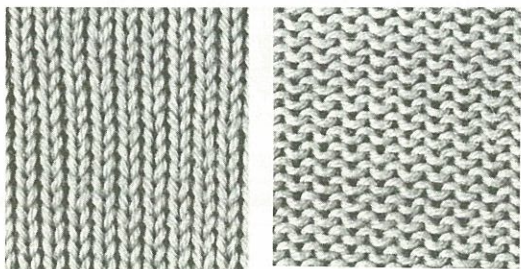
16. タックレース模様 (その2)



糸……サマーヤーン

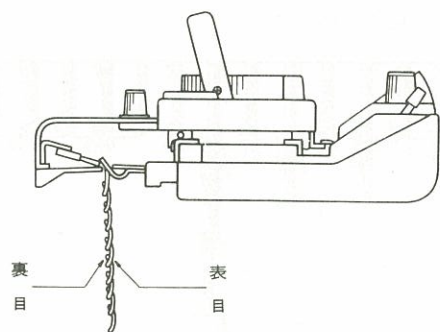
4	//	//	//					//	//	//										1	//	←
3	//	//	//					//	//	//										3	//	→
2	//	//	//					//	//	//										3	//	←
1	a	6	1					1	ひ	ひ				5					正	1	△	イ
順	地	編	タック	ひらきみ	すべり			カム	スレ	1	2	3	4	5	6	7	8				配	K
糸	目	目	目	目	目	目	目	ボタ	ッド	選	選	反	ス	選							色	L
口	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	タイ	ン	ボタ	針	針	転	ラ	針	針							リ
の	ヤル	ヤル	ヤル	ヤル	ヤル	ヤル	ヤル	ン	ン	ボタ	ボタ	レバ	イ	切	切							ジ
糸	レバ	レバ	レバ	レバ	レバ	レバ	レバ	ン	ン	ン	ン	ー	ス	替	替							の
								レバ	レバ	ン	ン	ー	ラ	レバ	レバ							方
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							向
序								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							糸
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							
								ン	ン	ン	ン	ー	イ	レバ	レバ							

《編地の表と裏》



(平編の表)

(平編の裏)



★編んでいるとき、手前に見える面を裏目、向こう側になっている面を表目と言います。お好みによって、表目、裏目のいずれも作品として用います。

《捨て編》

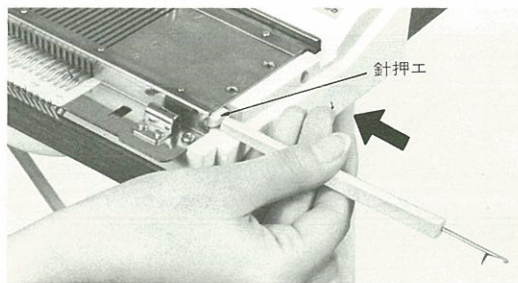


★作品を編む前、または作品を編機からはずすときなどに余分に編む（平編）部分を捨て編と云います。

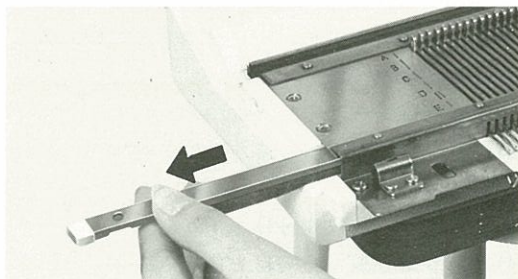
捨て編と本編の間は、一段抜き糸（付属品）で編んでおきます。

抜き糸を抜き取りますと、本編と捨て編の部分が切り離されます。

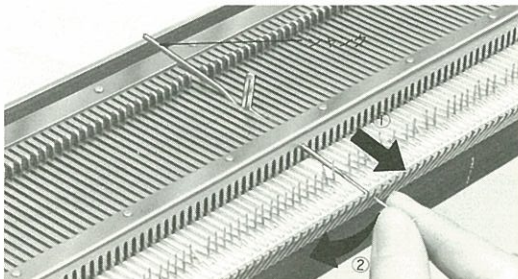
《編針が曲ったとき》



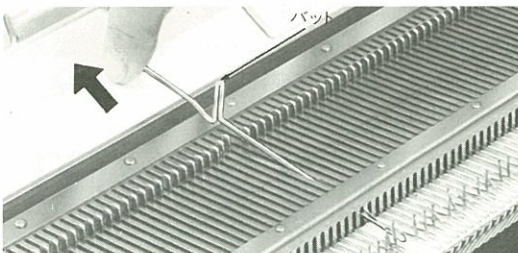
(1) 針押エを片方からミゾ板の中へ押し込みます。



(2) 反対側に出た針押エを引き抜きます。(針押エの端が、取り替えたい編針からはずれる所まで、抜きます。)



(3) 取り替える編針を針ミゾの一番手前に引き出し、フック部分を下に押しすと、シャンクがミゾ板の上に出ます。

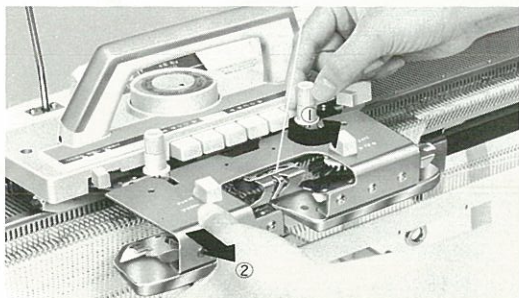


(4) 編針のシャンクかバットをつまんで後へ引き抜きます。

(5) 新しい編針のペラを開いて、はずしたときと逆の順序で入れます。

※針押エを差し込むときは真直ぐ差し込んで下さい。

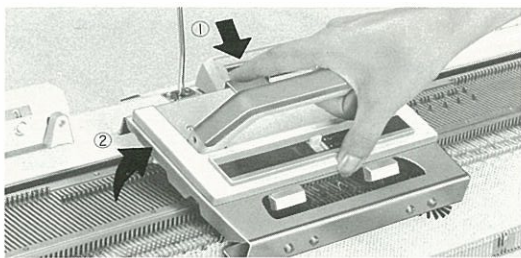
《編んでいる途中でキャリジが動かなくなったとき》



★無理に動かさずキャリジをはずして編み直して下さい。

- (1) 編地押エをはずします。
- (2) キャリジの手前を持ち上げ、編地のない所へ移動します。
- (3) 編地押エを取り付けます。
- (4) 途中まで編んだ編目をほどきます。

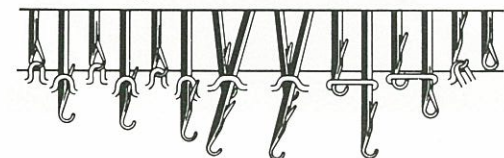
《編んでいる途中でLキャリジが動かなくなったとき》



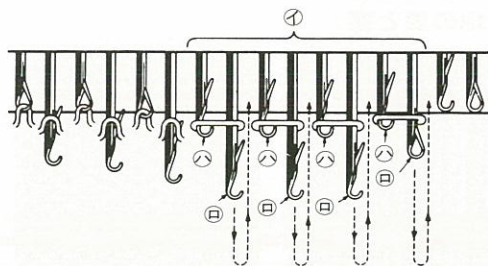
★無理に動かさないで、その位置で取りはずして下さい。

- ★編針に引っかかっているときは、よくみて無理のないようにはずして下さい。
- ★編針がバラバラにならんでいますが、次のようにしますと編んで行くことができます。

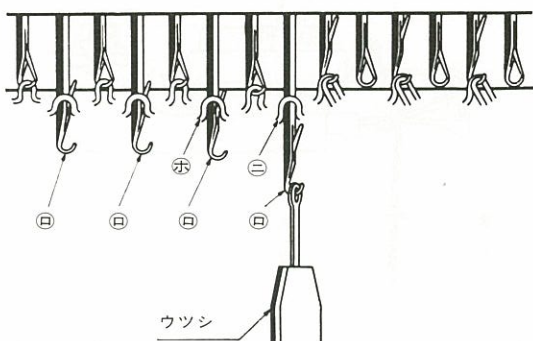
← Lキャリジの進んだ方向



- (1) 二本重なっている編針がありましたら、針先を指で持ち上げてはずして下さい。



- (2) 編目が二本の編針にかかっている部分①は前に出ている編針②を、矢印のように出してから、編針①と共にB位置まで押し下げますと、編目が移ります。

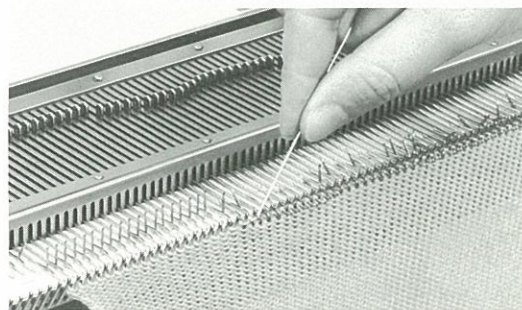


- (3) 残りの部分は、前に出ている編針②の編目を、ウツシで移します。

(ウツシの使い方は31ページをごらん下さい。)

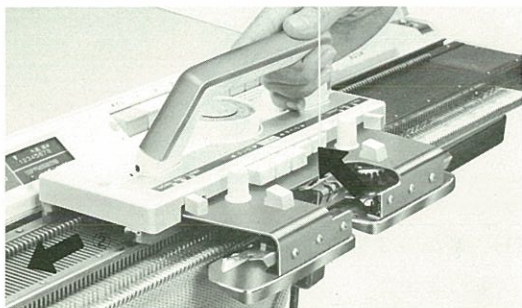
残りの部分が多い場合は次のようにします。③のように、針ベラの向こうにある編目をウツシを使って④のように針ベラの上に戻してから、編針を選針した状態に揃え、Lキャリジをもう一度動かします。

《編地のほどき方》



編み終り側の編糸をクシバの線に平行に引いて編目を引きしぼり、編糸を斜め上に引張って編糸をフックからはずすようにしますと、前の段の編目が自然に編針のフックにかかります。

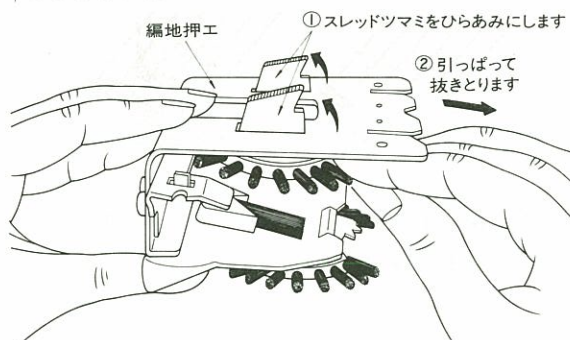
《キャリジを空送りしたいとき》



- ★編針はB位置に戻します。(編目がペラ抜けした所はウツシを使ってB位置に戻します。)
- ★平編の場合……カムボタンすべり左右を押せば編まないで空送りできます。
- ★選針されている編針がD I 位置の場合……選針された編針をB位置に戻しておいて下さい。
- ★編針がE位置またはD II位置にある場合……チェンジレバーを左右共3(ひきあげ)に切替えて下さい。

《スレッドはけ車のとりかえ方》

とり外すには……

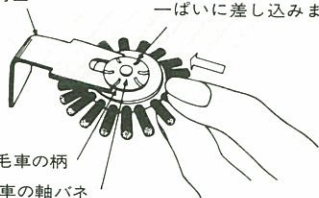


とり付けるには……

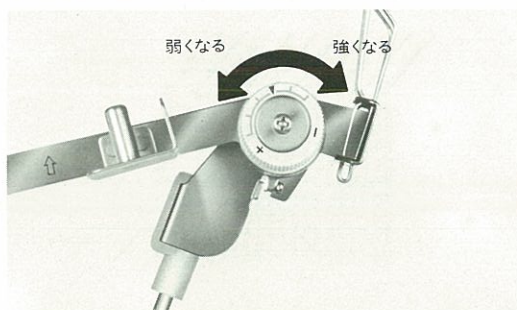
編地押エについている支持金

刷毛車の柄と、軸バネの間に支持金をはさみ一ぱいに差し込みます

スレッド刷毛車の柄
スレッド刷毛車の軸バネ



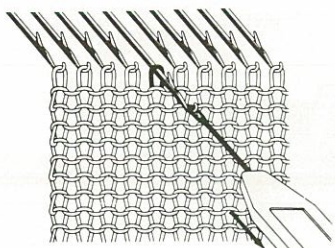
《糸調子のとり方》



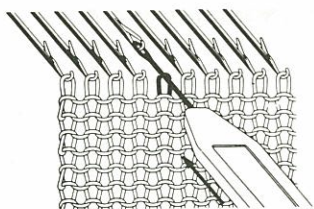
- ★+側に回しますと強くなり、-側に回すと弱くなります。編糸に応じて調節します。

※合細糸は▼印に合わせます。

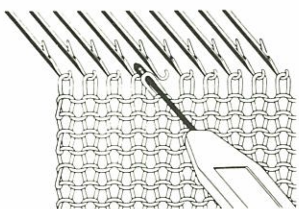
1. ウツシの使い方



- (1) 編針フックにウツシの穴をかけて、矢印の方向に引き、編目をベラの向うに移します。



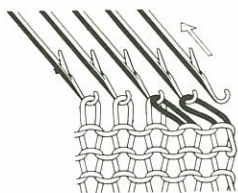
- (2) 逆に押すと編目は、ウツシに移ります。



- (3) 移したい編針のフックにウツシの空をかけ、編目を編針に移します。

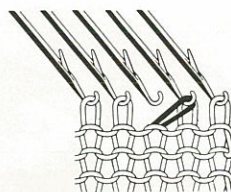
2. 減らし目

《端から1目内側の減らし目》

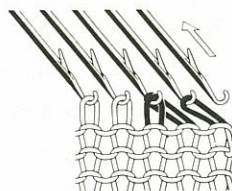


- ◎ 2本針のウツシを使って、端から2目を移し取り、内側にずらしします。

《2目立てる減らし目》



- (1) 端から3番目の編目を移し取り、2番目に重ねます。

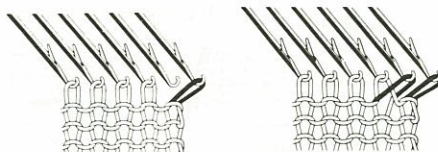


- (2) この2目を一度に空針になった3番目の針に移します。

次に端の編目も2番目に移します。

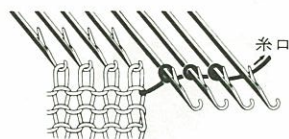
3. 増し目

《1目立てる増し目》



- (1) 端の1目を移しと (2) 2番目の1段下のループをウツシで引き上げ、空針にかけます。

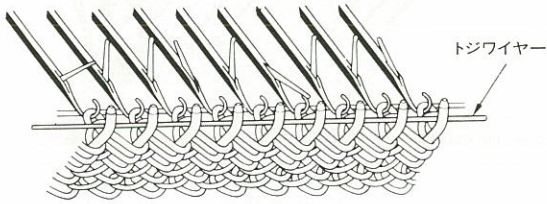
《1度に2目以上の増し目》



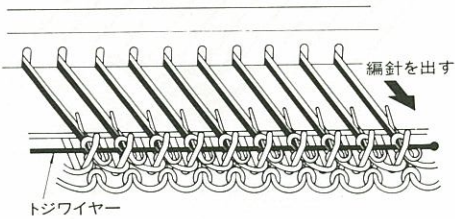
キャリジのある側で増し目するとき用います。

- ◎ 増し目する編針をE位置に出し、巻き目し、最後の目は編針を出すだけで編みます。

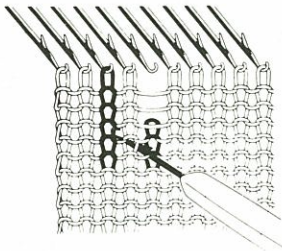
4. 1 目 ゴム 編



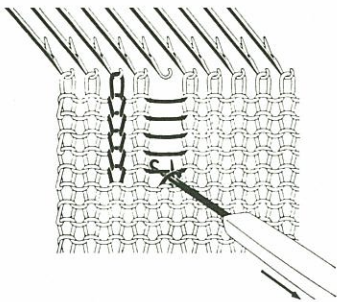
- (1) 編針とクシバの間に渡っている編糸の上にトジワイヤーをのせます。



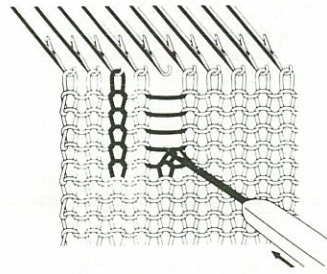
- (2) トジワイヤーが編針の下になるように、編針をクシバより少し前の位置まで出します。



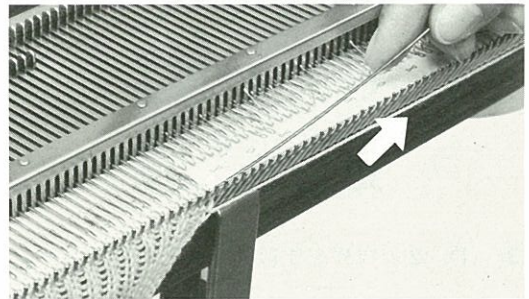
- (3) ゴム編に直す最初の位置にタッピを入れてから、編目を編針からはずし、編地を下に引張って編目をときます。



- (4) タッピの編目をベラの後に移し、上の段の横糸をフックにかけ、タッピを引いて編目を作ります。

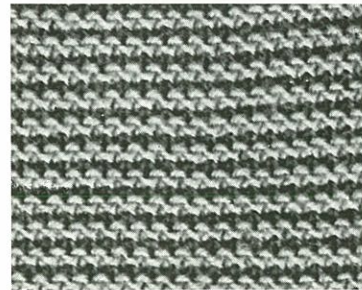


- (5) さらに上の横糸の下に、タッピを差し込みます。(4)、(5)をくり返し、最後の編目を編針にかけます。

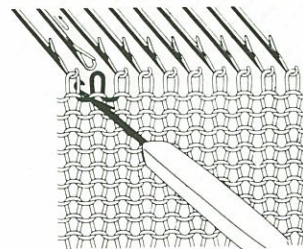


- (6) 1目ゴム編が終了したらトジワイヤーを引き抜きます。

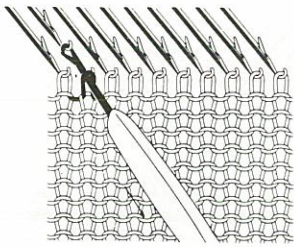
5. ガ ー タ ー 編



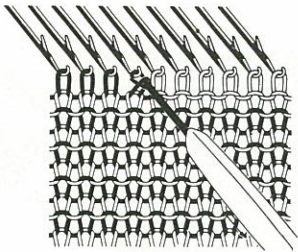
- ◎機械を平編の状態にセットします。
タッピを使って1段おきに、表目に直します。



- (1) 1段下の編目にタッピを入れ、編針の編目をはずします。

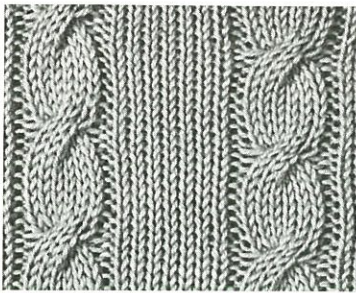


(2) 1段といた編目をタッピで編み、編針に移します。



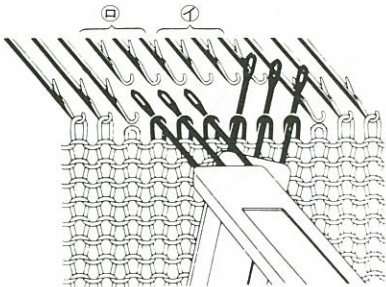
(3) (1)、(2)の操作を1段おきにくり返します。

6. なわ編 (交差模様)

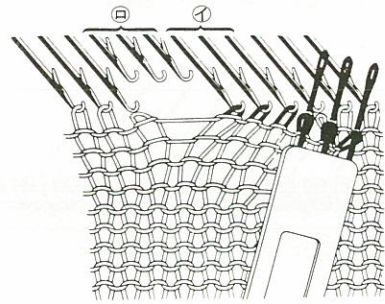


◎機械を平編の状態にセットします。

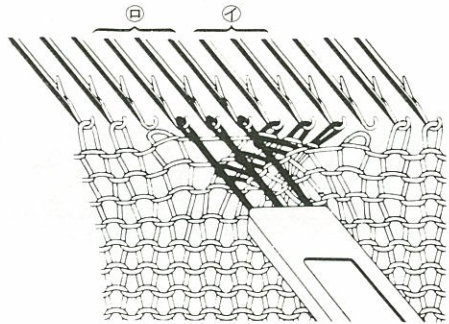
(1) 9段平編を編み、なわ編の両側1本ずつの編針から編目を落とします。



(2) 交差する編目を3目ずつウツシに移し取ります。



(3) ②の編目を①の空針に移します。

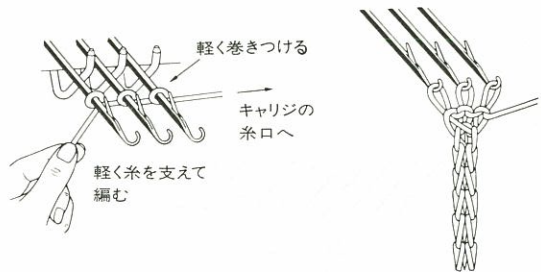


(4) ①の編目を②の空針に移します。

(5) (1)で編針から落とした編目を、9段下からタッピを使って表目に直します。

(6) 以下(1)~(5)をくり返します。

7. ひも編



(1) ひも編する編針を3目~4目出して、巻き目で作り目します。

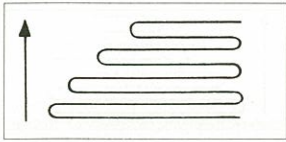
(2) 編目をきれいにするために、編目ダイヤルを標準より小さく合わせます。

(3) カムボタンの〈すべり右又は左〉を押して編みます。

各種模様の引返し編

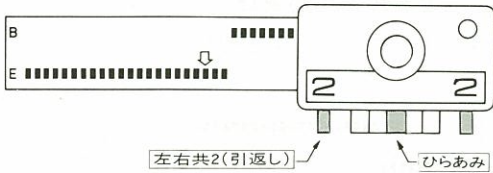
1. 平編の引返し編

編む部分を減らして行く場合

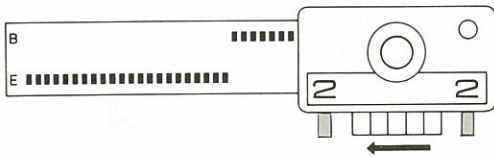


☆かたさがり、そでやまなど傾斜した編地を編むときに使います。

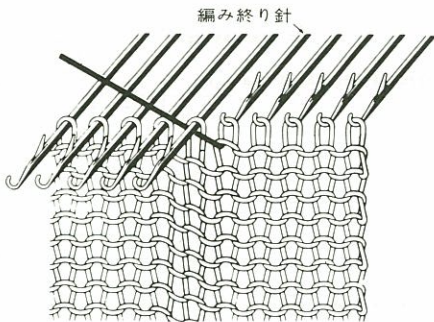
チェンジレバーを左右共2(引返し)にします。



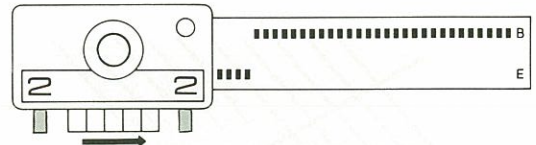
- (1) キャリジと反対側の休める部分の編針を、E位置に出します。
〔注意〕 編針の数は、カーブや傾斜の形によって変わります。



- (2) 1段編みます。
B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



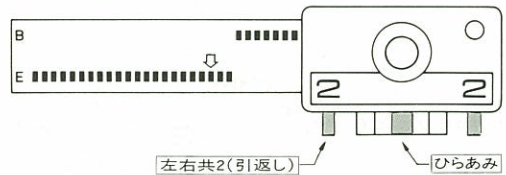
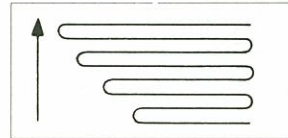
- (3) 引き返した部分に穴ができないようするため、編み終りのとなりのE位置の編針に、下側から渡った編糸をくぐらせませす。



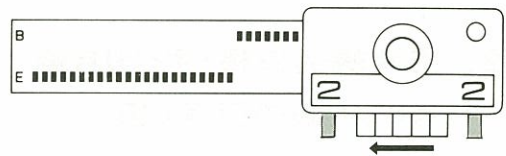
- (4) キャリジを引返して1段編みます。休める編針を増しながら(1)、(2)、(3)、(4)をくり返しますと、引返し編ができます。

※引返し編が終って、全体の編針を編みたいときは、チェンジレバーを左右共1(ひらあみ)に切り替えて編みます。

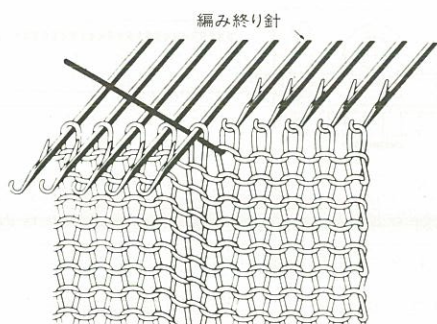
編む部分を増して行く場合



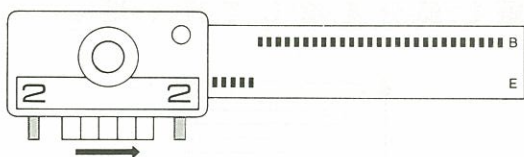
- (1) キャリジと反対側の、休める部分の編針をE位置に出します。



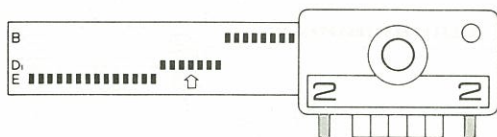
- (2) 1段編みます。
B位置の編針が編めて、E位置に出した編針の上に編糸が渡ります。



- (3) 引き返した部分に穴ができないようにするため、編み終りのとなりのE位置の編針に、下側から渡った編糸をくぐらせます。



- (4) キャリジを左から右へ、1段編みます。



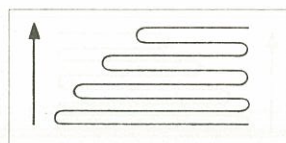
- (5) 次に編むE位置の編針をD I位置に押し下げます。(2)~(5)をくり返しますと、最後に全部の編針がB位置に並び、引返し編ができます。

2. 同時編込模様・すべり目編・スレッド編の引返し編

- (1) キャリジのチェンジレバーを左右共2(引返し)に切替え(他はその編み方のまま)休める部分のメリヤス針をE位置に出します。
- (2) 操作表により選針し、配色糸を糸案内に入れてから1段編みます。
- (3) 引返す部分に穴ができないように編糸(渡し糸も)を編終りの隣りのE位置の編針にかけます。
- (4) (2)と同じように1段編みます。

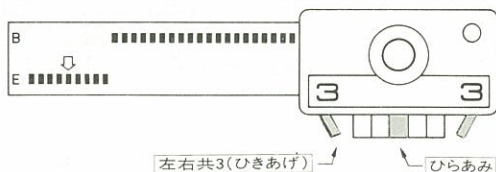
3. 引上げ編の引返し編

編む部分を減らして行く場合

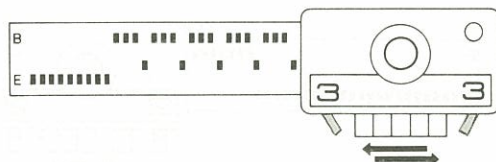


ここでは7号選針の引上げ編2段、平編2段の編地で2段毎に引返す場合を説明してみます。カムボタンのひらあみを押し、チェンジレバーを左右共3(ひきあげ)にします。

※1と5の選針ボタンを押しておきます。

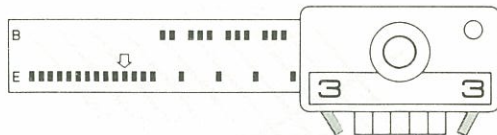


- (1) キャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。

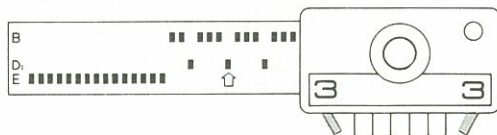


- (2) セットレバーを動かして選針し、2段編みます。(引上げ編)

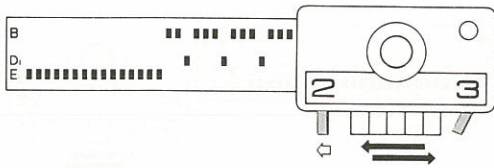
(1段編んだとき、E位置の端の編針に編糸)をかけて下さい。平編の引返しと同じ操作をします。



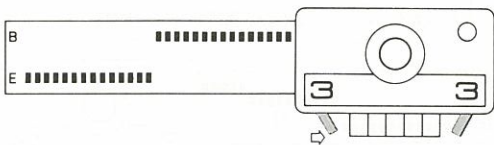
- (3) 次に、休める部分の編針をE位置に出します。



- (4) 引上げた編針をE位置からD I位置に押し下げます。

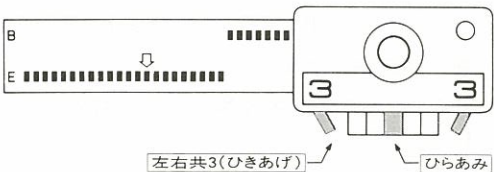
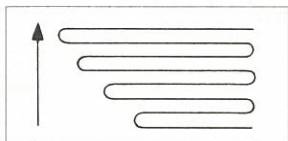


- (5) 進行方向のチェンジレバーを2(引返し)にしてから2段編みます。(平編)
 (1段編んだとき、E位置の端の編針に編糸をかけて下さい。)

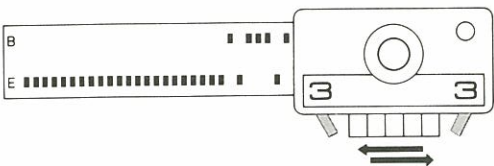


- (6) チェンジレバーを3(ひきあげ)に戻します。
 (1)~(6)を繰り返します。

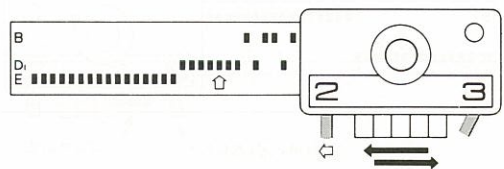
編む部分を増して行く場合



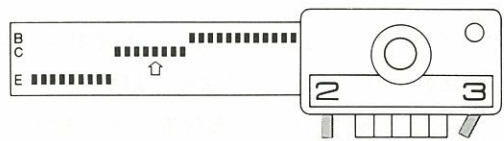
- (1) キャリジと反対側の休める部分の編針を、E位置に出します。



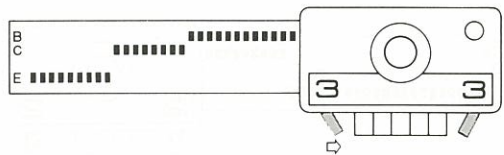
- (2) セットレバーを動かして選針し、2段編みます。
 (1段編んだとき、E位置の端の編針に編糸をかけて下さい。
 平編の引返しと同じ操作をします。)



- (3) 引上げた編針と次に編む部分の編針をE位置からD I位置に押し下げます。
 (4) 進行方向のチェンジレバーを2(引返し)にしてから2段編みます。(平編)
 (1段編んだとき、E位置の端の編針に編糸をかけて下さい。)



- (5) 次に編む部分の編針をC位置に戻します。



- (6) チェンジレバーを3(ひきあげ)に戻します。
 (2)~(6)を繰り返します。

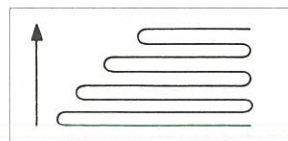
4. 総タック編の引返し編

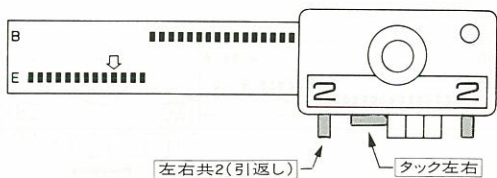
ここでは総タック編で、2段毎に引き返す場合の説明をします。

タック左右のカムボタンを押し、チェンジレバーを左右共2(引返し)にします。

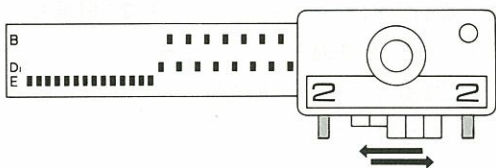
1. 3. 5. 7. の選針ボタンを押しておきます。

編む部分を減らして行く場合



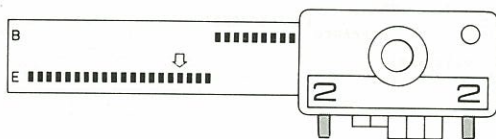


- (1) キャリジと反対側の休める部分の編針を、E位置へ出します。



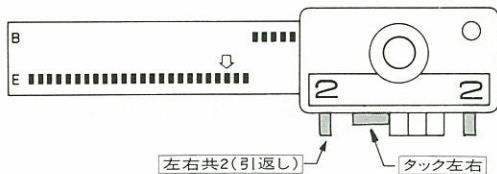
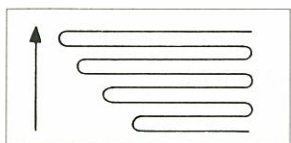
- (2) 反転レバーを正にして選針し1段編み、次に反転レバーを反にして選針し1段編みます。

(正で1段編んだとき、E位置の端の編針に編糸をかけて下さい。
平編の引き返しと同じ操作をします。)

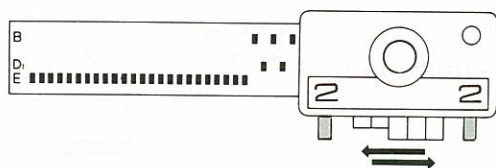


- (3) 次に休める編針をE位置に出します。
(2)~(3)を繰り返します。

編む部分を増して行く場合

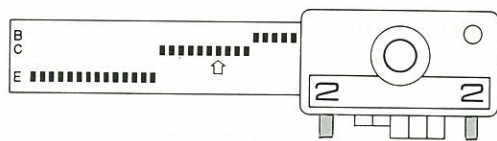


- (1) キャリジと反対側の休める部分の編針をE位置に出します。

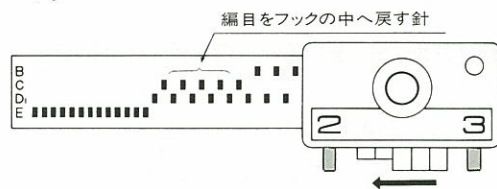


- (2) 反転レバーを正にして選針し1段編み、次に反転レバーを反にして選針し1段編みます。

(正で1段編んだとき、E位置の端の編針に編糸をかけて下さい。
平編の引き返しと同じ操作をします。)



- (3) 次に編む部分の編針をC位置に押し下げます。



- (4) 反転レバーを正にして選針します。
(5) C位置に残った編針の編目を、ウツシを使ってフックの中に戻し、その編針をB位置に並べ1段編みます。

(編んだときE位置の端の編針に編糸をかけた下さい。)

- (6) 反転レバーを反にして選針し1段編みます。
(3)~(6)を繰り返します。

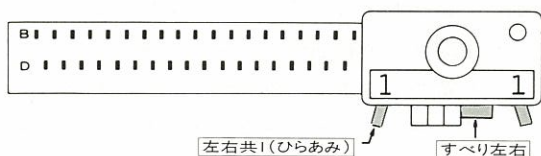
5. レース編の引返し編

★チェンジレバーを左右共1（ひらあみ）にします。

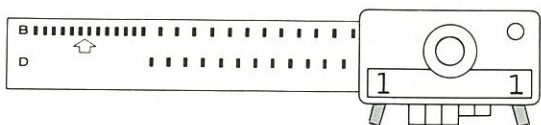
★すべり左右のボタンを同時に押します。

★編目ダイヤルを、次の表によって合わせ直します。

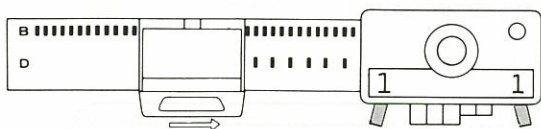
今まで合わせてあった目盛	合わせ直す目盛
5	6
6	7
7	8



(1) 操作表に従って、選針ボタンを押し選針します。

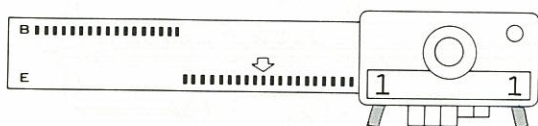


(2) 選針された編針の内、編まない部分の編針をB位置に戻し揃えます。

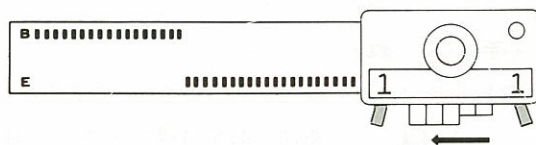


(3) 操作表の方向にLキャリジを動かします。

※操作表に、Lキャリジ操作がもう一回つづいているときは(1)、(2)、(3)をもう一度くり返します。



(4) 編む部分の編針を全部E位置に出します。



(5) 操作表の方向に、キャリジを一回だけ動かします。

※操作表のキャリジの操作が2段以上のときは(4)、(5)をその段数だけくり返します。

(引き返した部分に穴ができないようにするため、キャリジを動かす前に、編み終りの隣の編針フックに編糸をかけて下さい。)

手入れと保存

※機械への直接の注油は行わないで下さい。

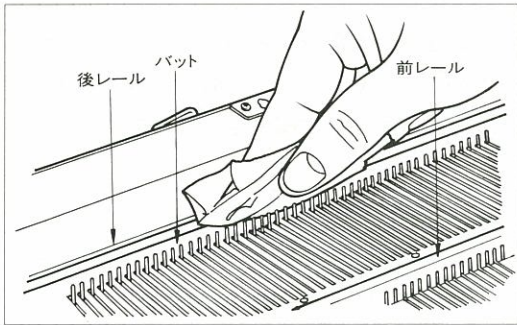
《手 入 れ》

◎編む前に油をしみこませた布でふいて下さい。



※油は必ず付属のブラザー編機用をご使用下さい。

◎キャップをはずし、胴を軽く押しますとハケに油がしみ出ますから、布にしみこませて下さい。



(1) 編針のバット

編針をB位置に並べ油布でふきます。

(2) ミゾ板前レール

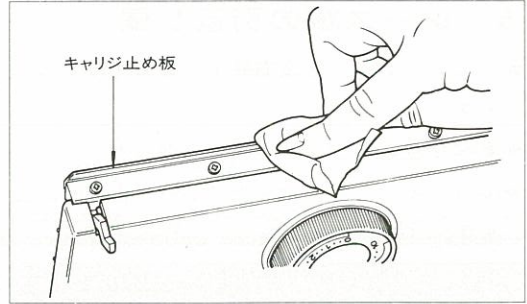
布でよごれをおとしてから油布でふきます。

(3) ミゾ板後レール

布でよごれをおとしてから油布でふきます。

(4) キャリジ裏側……布でよごれをおとしてから

図の点線の部分とカムA、Bの側面を油布でふきます。キャリジの操作が重いときも油でふいて下さい。



(5) キャリジ止め板

布でよごれをおとしてから油布でふきます。

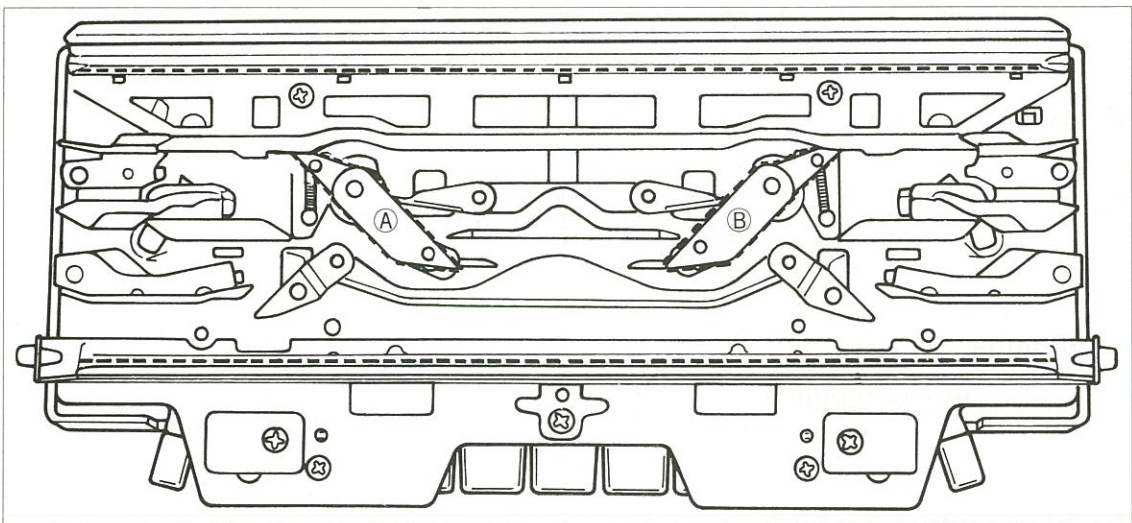
《保 存》

(1) しまうときは、手バケ・布などでよくほこりを除き、金属部分を、付属の油をしみこませた布でふきます。色のついている部分(ケース、キャリジカバーなど)のよごれは、中性洗剤などを布にしみこませてふきとります。※シンナー、アルコール、ベンジン、ガソリンなどは使わないようにして下さい。

※湿気のないところを選んで保存します。

(2) 長く保存しておいてから、再び使用するときは、一度油のついた布でよくふきとってから使用します。

最初は古い毛糸で20～30段平編を編みますと、古い油がとれて作品をよごすこともありません。



◆KR-110型のゴム編機をお持ちの場合◆

この欄はこの編機(KH-120型)にKR-110型のゴム編機をセットして編む場合にKR-110型の取扱説明書と併せてご覧下さい。

《KH-120の編目ダイヤルについて》

この編機は以前発表したKH-110・111「デリカ」に比べて編目が細かくなっています。そこで、この編機にKR-110をセットして編む場合には、KH-110・111にKR-110をセットした場合と同じ編目にするために、編目ダイヤル比較早見表を使ってこの編機の編目ダイヤルを合わせる事が必要です。

《編目ダイヤル比較早見表》

	編 目 ダ イ ヤ ル																					
KH-110 111	0	0.1	0.2	1	1.1	1.2	2	2.1	2.2	3	3.1	3.2	4	4.1	4.2	5	5.1	5.2	6	6.1	6.2	7
KH-120	1	1.2	2	2.2	3	3.1	3.2	4	4.2	5	5.1	6	6.1	6.2	7	7.2	8	8.1	8.2	9	9.2	10

★上の表は上段・下段ともKR-110とセットのときを示します。

《編目ダイヤル比較早見表の見方》

★例えばKH-110・111とKR-110をセットのとき、編目ダイヤルが本機側3・ゴム機側3の場合は、表からKH-110・111の3はKH-120の5となっていますので本機側を5、ゴム機側はそのままの3に合わせます。

あなたのニットライフを
より豊かにする
ニットの専門誌

毎月発行
ハローニット

あなたも、いまずぐお申し
込みになりませんか——

ファッション、手づくり、アイデア、そしてテクニックなど全ページに楽しいニットの話題を満載した「ハローニット」は、とっておしゃれなニットの専門誌。豊富で確かなニット情報を、あみものファンの方のお手もとへ、毎月1回直接お届けいたします。



プロフィール

- 発行日……毎月1日(毎号郵送)
- 体裁……A B判68ページ
(カラー20ページ)
- 年間購読料……3,900円
- 発行……ブラザー編物研究会

昭和58年9月現在

(注)購読料は郵便料の値上げなどにより変わる場合がありますので、お申し込みの際には、最寄りの編物教室またはブラザー販売店でおたずねください。

ご購入の方法

●お申し込みは、いつからでもできます。

※毎月5日(ブラザー編物研究会到着)までにお申し込みをいただきますと、その翌月号から「ハローニット」を直接郵送いたします。5日を過ぎてからお申し込みが到着した場合には、その翌々月号からの配本となります。

●「ハローニット」は年間予約購読制です。

※12カ月分をまとめて申し込んでいただく「年間予約購読制」ですから、1度のお申し込みで、向こう1年間、「ハローニット」が毎月確実にあなたのお手もとへ届きます。もちろん、1年後の更新時期には、前もって「継続手続きのご案内」をお送りし、お知らせしますので引き続きの購読お申し込みの際にも安心です。

●お申し込み方法は簡単です。

※ブラザー編物教室またはブラザー販売店に用意してあります、「ハローニット購読申込書」に必要事項をご記入の上、年間購読料を添えて最寄りの郵便局窓口にお出しく下さい。この振替用紙をお使いになれば、送金手数料は当方の負担となりますので、お支払いになる必要はございません。

●アフターサービスについて

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保存してください。
- 無料修理保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。)それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこの編機の補修用性能部品を、お買い上げ日から最低5年保有しています。
 - ・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の《お客様相談コーナー》へお問い合わせください。

お客様相談コーナー

札幌支店	〒060	札幌市中央区南三条西3-2-2	電話(011) 261-6631
仙台支店	〒980	仙台市一番町2-3-10	電話(0222) 27-8877
北関東支店	〒330	大宮市仲町1丁目124-2	電話(0486) 42-1271
東京支社	〒104	東京都中央区京橋3-3-8	電話(03) 273-0231
横浜支店	〒220	横浜市西区楠町9-6	電話(045) 312-8631
新潟支店	〒950	新潟市東大通1-1-1	電話(0252) 47-7101
静岡支店	〒420	静岡市御幸町9-1	電話(0542) 54-2601
名古屋支店	〒460	名古屋市中区栄3-27-18	電話(052) 261-3271
京都支店	〒600	京都市下京区四条通り御幸町角	電話(075) 255-2481
大阪支店	〒542	大阪市南区心斎橋筋1-1	電話(06) 252-1797
広島支店	〒730	広島市中区胡町4-27	電話(082) 241-9236
高松支店	〒760	高松市寿町1-1-5	電話(0878) 51-7341
福岡支店	〒812	福岡市博多区博多駅前2-20-1	電話(092) 481-2671
熊本支店	〒860	熊本市城東町2-20	電話(096) 355-7151
沖縄出張所	〒900	那覇市泊3-1-2	電話(0988) 68-4511

◎ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の《お客様相談コーナー》へご連絡ください。

※上記の電話番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社

取扱店

〒467 名古屋市瑞穂区堀田通9-35
電話 (052) 824-2511(代)